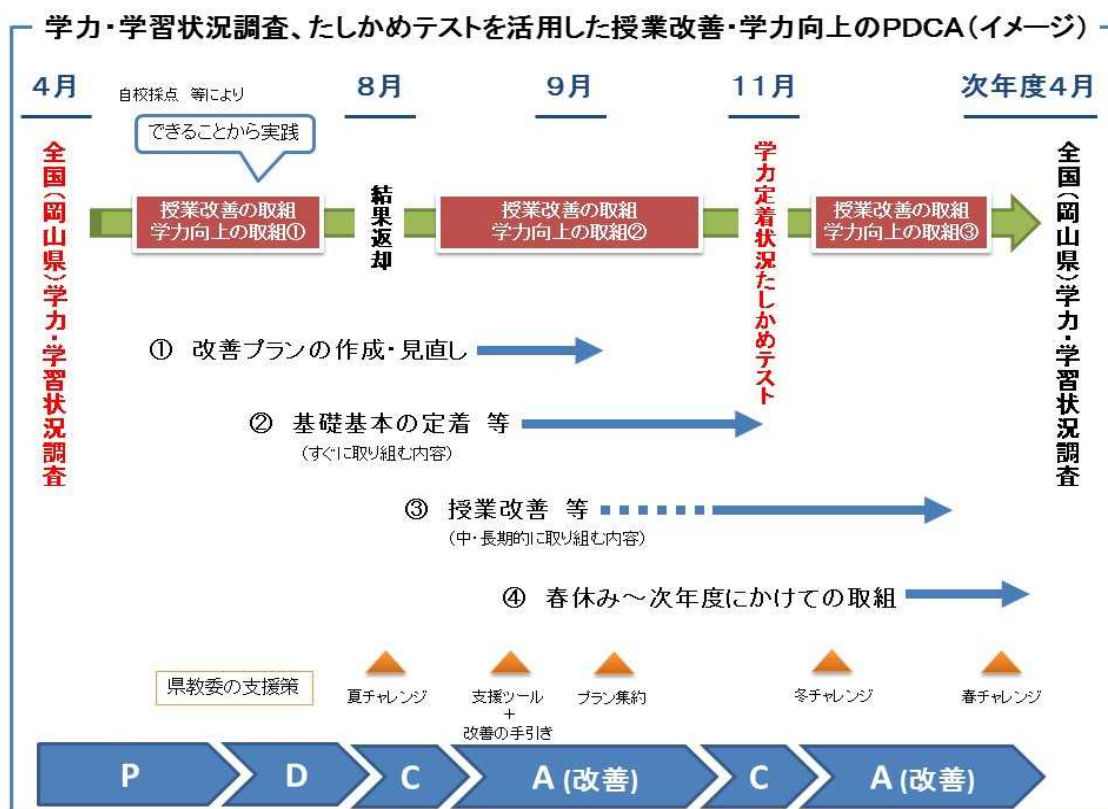


平成26年度全国学力・学習状況調査の結果分析を踏まえた今後の改善方策について

- 8月の結果公表後、市町村教育委員会は「学力・学習状況改善プラン」の作成を行ってきた。このたび、県としてそれらのプランを取りまとめるとともに、各学校における指導の改善に資するため、追加分析を行うことにした。
- (市町村教育委員会の学力・学習状況改善プラン)
各市町村教育委員会が作成した「学力・学習状況改善プラン」を取りまとめることにより、県全体の各市町村が互いの取組を参考にして改善プランの更なる充実を図るとともに、学力向上に向けた取組の確実な実行に資することをねらいとして本資料を作成し公表することとする。
- (追加分析)
各学校における指導の改善に資するため、今回新たに、各科目の設問別調査結果について、全国平均との差を基に「成果の見られる設問」「課題の見られる設問」「無解答率の高い設問」の3つの観点で分析した。また、平均正答率が上昇した幅の大きい30校と、下降した幅の大きい30校を抽出し、学校質問紙の結果を比較、分析した。
- 各市町村教育委員会や各学校においては、改善プランや追加分析を踏まえて、次のイメージにあるように短期・中長期それぞれの段階に応じた改善を計画的に図っていくことが望まれ、市町村教育委員会と学校が一体となって、改善プランに基づいた取組を「継続」し「徹底」することが、学力向上に向け重要である。



I 市町村教育委員会・学校の学力向上に向けた取組の方向性

次の1～5の観点で市町村の「学力・学習状況改善プラン」の取り組み内容を整理した。

1 落ち着いた学習環境づくり

- 生活習慣・授業規律の指導の継続（挨拶、整頓、読書、学習の仕方等）
- 学級集団づくりの充実（心理検査の活用、人間関係づくりの取組等）

2 教師の指導力向上（授業改善に向けた取組）

- 各種研修会の充実（公開授業、中学校区単位・市町村単位での研究会等）
- 取組の徹底・継続（指導主事の複数回訪問による定期的な確認と取組の確実な進捗等）

3 基礎基本の定着

- 児童生徒一人一人のつまずきの早期把握と課題に応じた取組の焦点化（学力定着状況たしかめテストや独自の学力調査結果の活用等）
- 基礎的・基本的事項の確実な定着（独自作成の学習プリント等の活用、県教委作成の「春・夏・冬チャレンジ」「チャレンジランキング」の取組等）
- 学校での補充・発展学習サポート（朝学習、放課後の活用等）

4 家庭学習習慣の確立

- 定期的な実態把握（家庭学習の実態把握のための調査等）
- 家庭での学習習慣啓発（課題集の作成、「家庭学習の手引き」の有効活用や強化週間の設定等）

5 家庭や地域との連携

- スマートフォン・ゲーム利用のルールの設定・順守ための取組推進（例：夜9時になったら親が預かる等）
- 学校・家庭・地域が連携した取組の推進（広報活動の工夫、協議の場の設定と共通実践等）

県教育委員会としては、頑張る学校応援事業による優良事例の普及や「岡山型学習指導のスタンダード」による共通実践事項の徹底、課題の大きい学校に対する緊急の支援員配置、各PTA団体や中学校体育連盟等との協議などにより、これらの取組の支援を図っていく。

Ⅱ 「学力・学習状況改善プラン」に見る指導改善に向けた市町村教育委員会（岡山市は除く※）による取組例 ※岡山市は独自の様式によるプランを作成し、10月末に公開の予定。

1 市町村教育委員会の重点的取組の状況

市町村名	落ち着いた学習環境づくり	教師の指導力向上(授業改善に向けた支援策)	基礎基本の定着	家庭学習習慣の確立	家庭や地域との連携
倉敷市		○	○	○	○
津山市		○		○	○
玉野市	○	○	○	○	○
笠岡市	○	○	○	○	○
井原市	○	○	○	○	○
総社市	○	○	○	○	
高梁市	○	○	○	○	
新見市		○	○		
備前市		○	○	○	○
瀬戸内市		○	○	○	○
赤磐市	○	○	○	○	
真庭市	○	○	○	○	
美作市	○	○	○		
浅口市		○	○	○	○
和気町	○	○	○	○	○
早島町		○	○	○	
里庄町	○	○	○	○	○
矢掛町	○	○	○	○	
新庄村					
鏡野町		○	○		
勝央町		○	○	○	○
奈義町	○	○	○	○	
西粟倉村					
久米南町	○	○	○	○	○
美咲町	○	○	○	○	○
吉備中央町	○	○	○	○	○

※ ○印は、各市町村教委が重点的に取り組むことを示し、空欄であっても取組を行わないということではない。

2 取組の内容

(1) 落ち着いた学習環境づくり

特徴的な取組の具体例

	現状と課題	具体的な取組例
玉野市	<ul style="list-style-type: none"> 多くの科目で県平均を上回ったことから、これまでの取組の方向性が正しかったことを確認し、「わかる授業づくり」の継続を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 授業の目標や考え方・手順の明確な提示、板書の色使いなど視覚支援の工夫、スモールステップによる授業展開など、特別支援教育の視点を生かした<u>授業のユニバーサルデザイン化の推進</u>による「わかる・できる」授業づくりをさらに研究・実践し、すべての児童生徒にとって魅力的な学校づくりを進める。
総社市	<ul style="list-style-type: none"> 小中学校ともに、学校間で正答率の差が大きいことから、「落ち着いた学習環境づくり」の取組を徹底する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 協同学習、ピア・サポート、社会性と情動の教育（SEL）、品格教育の一層の充実を図り、児童生徒にとって魅力的であり、安心して学習に取り組める集団づくりを継続して進める。
矢掛町	<ul style="list-style-type: none"> 中学生は基礎的な内容の定着や学習や調査に対する意欲に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ よりよい生活習慣と充実した学習の実現のために、12年間を見通した「<u>矢掛町保幼小中学習規律等一貫指導プラン</u>」を作成している。町内保幼小中各校の代表で検討委員会を組織し、年度内の完成を目指している。来年度はPTAとも連携して普及予定。
久米南町	<ul style="list-style-type: none"> 授業には真剣に取り組める児童生徒が多いが、自分の考えを表現する（書く・言う）ことを苦手と感じる児童生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 定期的に小テストを実施し、児童の理解度・つまづきを把握し、個に応じた支援を行い、表現力を身に付けさせるとともに、心理検査hyper-QUを利用して、学校生活における児童生徒の意欲や満足感、および学級集団の状態を的確に把握し、安心して表現でき、落ち着いて学校生活を送ることができるよう支援する。

その他の取組例

- ・「授業改善」と「集団づくり」を柱とした学校・学級集団づくりの取組の推進。
- ・子どもの人間関係づくりを大切にした学級集団づくりの取組。

(2) 教師の指導力向上（授業改善に向けた支援等）

特徴的な取組の具体例

	現状と課題	具体的な取組例
笠岡市	<ul style="list-style-type: none"> 中学校において、すべての科目で平均正答率が県平均を下回る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 特に中学校対象の授業改善のための研修会を今年度中に計画する。公開授業と著名な実践者による助言・講演を実施し、教科・領域を超えた授業改善のための取組について、具体例を通して共通理解を図る。

津山市	現状と課題	具体的な取組例
	<ul style="list-style-type: none"> 取組がやや単純化、矮小化された傾向があり、特に、活用問題等への対策の意識が低かった。調査問題で課題とされたことの授業中における具体的な取組が不十分であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 中学校数学教員を招集した「中学校数学『活用問題』プロジェクト（仮称）」を実施し、県の指導主事、大学教員とともに、数学的な活用力をつけるための指導方法等の研究開発を行う。 ○ 通常の勤務終了後、原則月2回程度のペースで市内の若手教員を対象とした「げんぼ塾」（自主研修会）を開催し、児童生徒の学力の状況等を踏まえた効果的な指導を行うための力量向上を図る。
井原市	現状と課題	具体的な取組例
	<ul style="list-style-type: none"> どの科目においても、論理的思考により文章を理解する、文章を作成する力を向上させること。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 言語活動の充実（「話す・聞く・書く」）を全教科・授業において、積極的に書く活動を取り入れる。 ○ 積極的な校内授業研究、校内研修を行い、外部講師を活用するなどして指導力の向上を図る。
美咲町	現状と課題	具体的な取組例
	<ul style="list-style-type: none"> 「長文を読んで理解する」「条件に合った内容を考えて書く」「根拠を明確にしながら論理的に説明する」など、知識・技能の適切な活用力を問う設問を苦手とする児童生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学力調査結果から明らかになった課題を基に、「話す」「聞く」「書く」「考える」活動を授業の中に積極的に取り入れながら、身に付けた基礎的な知識・技能が有効に活用されるような授業展開の工夫について考えていく。特に、国語では、「単元を貫く言語活動」等を取り入れながら、目的意識や相手意識をしっかりと持たせることのできる授業が積極的に展開されるよう、各校に対して指導・助言を行う。

その他の取組例

- ・ 全国調査における設問ごとの比較表の作成による各学校の授業改善や教育委員会の導の充実。
- ・ 市内各校の校内研修（公開授業）の全小中学校への情報提供。
- ・ 指導主事の複数回の学校訪問による、改善の様子の確認。
- ・ ICTを有効活用した授業の構築。
- ・ 学習支援員の効果的な活用についての好事例の紹介。
- ・ 授業研究会を土曜開催とし、町村の枠をこえた郡全体での課題と成果の共有。

（３） 基礎基本の定着

特徴的な取組の具体例

備前市	現状と課題	具体的な取組例
	<ul style="list-style-type: none"> 学校の授業時間以外で、普段1日当たり1時間以上勉強する割合が、中学生では全国とほぼ同じであるが、2時間以上勉強する割合は、全国を約9ポイント下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 市内小中学生の自主学習を支援することを目的に土曜日や夏期休業中に複数会場で開催している「備前まなび塾」について、実施回数の拡充及び塾生の積極的な募集を進め、学習習慣の確立と基礎基本の定着をより一層推進する。

赤磐市	現状と課題	具体的な取組例
	<ul style="list-style-type: none"> 国語では継続した課題である文法に関する基礎基本に関する正答率が低い。 小学校算数では継続して課題が見られるものがあり、小学校5年・中学校2年での確実な学び直しを各校の実態に応じて進めていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 各校独自の取組から好事例を収集し、紹介することにより内容・方法を見直したり、<u>大学・企業との連携によるICT機器を活用した既習事項の反復練習の成果を活用したりするなど</u>、朝学習、昼学習、晩学習の充実を図る。 小学校3・4・5年、中学校2年の学習内容の確実な復習の体制を確立し補充学習を充実させる。 みんなでチャレンジランキング、基礎学力定着プリントの活用等、各種学習プリントの活用を進める。
勝央町	現状と課題	具体的な取組例
	<ul style="list-style-type: none"> 小学校は国語A・国語B・算数Bで全国平均正答率を下回っている(第3・4学年以降の振り返り学習が不十分であったと思われる)。 	<ul style="list-style-type: none"> 町内小学校2校に「<u>学習プリント作成ソフト</u>」を導入し、各学年の学習内容定着状況に応じたプリントを有効活用することで、振り返り学習を効果的に推進する。
美咲町	現状と課題	具体的な取組例
	<ul style="list-style-type: none"> 以前に比べると、「基礎的学力」は向上しつつあるが、未だ全体的に確実性が低い。 	<ul style="list-style-type: none"> 「<u>基礎定着プリント</u>」の有効活用と「<u>チャレンジテスト</u>」の実施による学習意欲の向上を図り、「町内統一テスト」による反復練習等の徹底を各校に対して再度、確認・周知し、引き続き「基礎・基本の徹底」を目指す。

その他の取組例

- ・到達度確認テスト等の活用による学力の定着度の確認の推進。
- ・全国、県調査の過去問題の入ったCDの配付。
- ・市町村が独自で実施する学力調査の分析による改善の成果確認。
- ・朝学習、放課後補充学習の取組好事例の収集と普及。

(4) 家庭学習習慣の確立

特徴的な取組の具体例

倉敷市	現状と課題	具体的な取組例
	<ul style="list-style-type: none"> 調査結果から、春休み期間中の取組の重要性が明らかになっている。昨年度から配付している「春休みの課題集」の内容をより充実したものに改善していく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎問題と活用問題をバランスよく掲載したり、過去の学年の復習内容を掲載した「<u>春休みの課題集</u>」の作成と活用。 H27以降に向けて、春休みだけでなく、その前後(年度末・年度当初)も活用できる課題集作成のための計画立案を行う。
津山市	現状と課題	具体的な取組例
	<ul style="list-style-type: none"> 小中学校とも、教師の授業と家庭学習をつなぐ意識や児童生徒の家庭学習時間の確保に依然として課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> <u>家庭学習時間についてのより細かな実態把握のための調査</u>を10月以降、毎月1週間ずつ、全市で統一して実施し、児童生徒の実態をタイムリーに把握・共有することで、学校と家庭及び地域が一体となった取組の充実を図る。

	現状と課題	具体的な取組例
真庭市	<ul style="list-style-type: none"> 小中学校ともテレビ等の視聴時間は長く、休日の学習時間や中学校の平日の家庭学習時間が短い。 スマートフォン等の所有率が飛躍的に上昇しているが、ルール作りに遅れがみられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習時間の確保のため、目標時間の設定と確認をし、学校全体で取り組む。 各校で宿題の内容・量の検討を行い、自主学習に積極的に取り組むよう働きかける。 学ぶ力の土台として、学習・読書習慣の育成を軸に生活習慣を高める。
	現状と課題	具体的な取組例
久米南町	<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習にはまじめに取り組む児童生徒が多いが、取組時間には差がある。併せて、自主学習の質を高める必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 保育園・町立図書館と連携し、町内一斉ノーメディア週間を実施し、家庭での更なる生活習慣改善を図る。また、家庭学習の手引き、自主学習の手引きを積極的に活用するとともに、次年度に向けて交流・検討し、町内で統一できる内容について統一を図っていく。

その他の取組例

- ・家庭学習の手引きの有効活用と実践。
- ・小中連携による中学校区での家庭学習習慣の確立に向けての研修の開催。
- ・家庭学習の好事例の紹介や情報交換。
- ・児童生徒のゲームやメール等のメディアの接し方についての指針の作成。

(5) 家庭や地域との連携

特徴的な取組の具体例

	現状と課題	具体的な取組例
浅口市	<ul style="list-style-type: none"> 小中学校ともに、家庭学習時間が全国平均を下回り、逆に、平日のテレビの視聴時間やゲーム、スマートフォンの利用時間等が全国平均を上回る。 	<ul style="list-style-type: none"> 1月に市民を対象とした「学力向上フォーラム」を開催し、児童生徒の学力・学習状況の実態を踏まえた各幼稚園・小中学校の取組を広く知ってもらう機会を設け、市を挙げた家庭・地域との連携の推進を図る。当日は、代表校園による実践発表と、全幼稚園・小中学校によるポスター発表を予定している。
	現状と課題	具体的な取組例
和気町	<ul style="list-style-type: none"> 国語の文法における基礎基本に関わる事項や、算数(数学)の基礎基本に関わる計算領域の底上げが必要。 	<ul style="list-style-type: none"> 町内放送を活用した「家庭学習頑張り週間」や「生活向上週間」の呼びかけを行うとともに、「頑張りカード」を活用した強化週間を設定するなど、学校・家庭・地域が連携した取組を推進する。

その他の取組例

- ・家庭学習時間、携帯電話やスマートフォンの使用時間等を広報誌への掲載。
- ・すべての学校への学校支援地域本部の設置。
- ・生活習慣やメディア利用時間のルールづくり。
- ・PTAとの連携によるメディア接触時間の減少等の推進。

(6) その他

特徴的な取組の具体例

	現状と課題	具体的な取組例
新見市	<ul style="list-style-type: none"> 国語、算数(数学)ともに、教科書の上だけでの指導に終わらせず、活用できるレベルにまで引き上げるべく指導の工夫を行う必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 各校から提出された「学力・学習状況改善プラン」を分析し、「新見市学力向上推進研修会」を開き、学力調査結果の分析や喫緊の学力向上に係る課題についての研修を実施することにより、全市的に取組の方向性を共有した授業改善を進める。
瀬戸内市	<ul style="list-style-type: none"> 数学Bにおいて、活用全般に大きく課題がある。特に低得点層の生徒の割合が高い。 	<ul style="list-style-type: none"> 特に算数・数学において、習熟度別の授業を積極的に行うよう各校を指導し、児童生徒ひとりひとりの実態に応じた指導を推進する。 大規模校に対し、特に算数・数学の授業において少人数授業の研究推進を図るよう指導する。
美作市	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率のポイント差が縮まり、各校の基礎基本の徹底や授業改善の取組、習熟度別指導等の成果が徐々に現れているものの、基礎的な知識・技能の活用問題で誤答が目立つなど、課題も明らかになった。 	<ul style="list-style-type: none"> 緊急の臨時校長会、教務主任等学力担当教員対象の研修会を開催し、現状の把握と取組の方向性の共有を図るとともに、中学校区別の研修会を開催し、対応策の焦点化を図る。 重点的に取り組む市内共通の課題集を作成し、全校で取り組む。家庭学習の充実に向け、保護者へのチラシ等を作成し、啓発する。
里庄町	<ul style="list-style-type: none"> 国語科では、文章を読んで根拠を明確にして自分の考えを書くこと、算数、数学科では、割合の問題や示された問題を、自分で整理して説明する力に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 教育委員会だよりの定期的な発行により、調査結果から見えた成果と課題を小中学校で共有し、今後の取組の方向性の確認、好事例の共有を行う。併せて「基礎基本の徹底」「論理的に書く力の育成」「家庭学習の充実」など、里庄町学力向上の重点目標についても徹底する。
鏡野町	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率を学校別に分析すると、学校間で大きな開きがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 指導主事による学校訪問及び校長面談を実施し、課題を共有しながら、具体的な改善方策を共に立案・実行する。
吉備中央町	<ul style="list-style-type: none"> 町内の全小学校の卒業生が、1つの中学校に進学することから、常に小中連携・小小連携を意識した系統的な取組を推進する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習指導案の「指導上の立場」の中に、「小中連携について」の項目を設け、取り上げる教材の内容が、小学校や中学校の各段階で、どのように扱われるか、どのような配慮や工夫をしているか等を記載する。そうすることによって、学習指導案検討時から、他校の職員を招いた検討会を積極的に開催するなど、学校間の連携を活性化させる。

その他の取組例

○対応策の焦点化

- ・それぞれの学校の課題に対応する取組を学校に対して指導。

○小中連携、小小連携の推進

- ・家庭学習の習慣化とメディアのつきあい方に関する中学校区統一のチェック表の作成と活用。
- ・郡内の小中学校教務主任研修会における教育課程編制の交流。
- ・「小中連携について」の項目を入れるなど、学習指導案の工夫。

○市町村内の教職員間の情報共有

- ・各小中学校の結果及び今後の取組等の市内の教職員での共有。
- ・成果が出た学校の取組の共有。
- ・臨時校長会の開催による現状の把握と方向性の共有。

○他課との連携

- ・教育総務課と連携した I C T 機器の整備。
- ・社会教育課と連携した「寺子屋型放課後学習教室」の開催の模索。

Ⅲ 学力・学習状況調査結果の追加分析

1 学力調査の科目ごとの結果

【分析の視点】

調査結果を今後の指導改善に資するため、各科目の設問別調査結果について全国平均との差を基に「成果の見られる設問」「課題の見られる設問」「無解答率の高い設問」の3つの観点で分析した。

- 漢字の読み書きや四則混合計算等、過去の調査で課題が見られた基礎的・基本的な設問において全国平均を上回るなど、成果が見られた。
- 小学校においては、故事成語の使い方など「伝統的な言語文化と国語の特質」に関する内容、割合や面積の問題など「数量関係」、中学校においては多くの設問で、全国平均との差が大きく、課題が残った。
- 国語、算数・数学とも「解答を記述する」設問、算数・数学における「考え方を問う」設問において、無解答率が高い傾向がある。
- 授業で、調査問題を活用するなどして、活用型の設問に触れる機会を設け、解き方や考え方を丁寧に説明するとともに、類題を解かせ、理解の定着を確認し、解けたという自信をもたせる指導を行う必要がある。

小学校 国語 A

	児童数	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
岡山県（公立）	17,208人	10.7問/15問	71.4%	11.0問	3.1
全国（公立）	1,080,663人	10.9問/15問	72.9%	12.0問	3.1

成果の見られる設問（平均正答率の全国平均との差が「正」）

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等				評価の観点				問題形式			正答率(%)					
			話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質	関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解・技能	選択式	短答式	記述式	岡山県公立	全国公立	全国平均との差		
1二(3)	漢字を書く（かぜをよぼうする）	学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書く				5・6(1)ウ(ア)						○		○		79.4	77.4	2.0	
8	言葉の意味と使い方を捉え、適切なものを選択する（はかる）	国語辞典を使って、言葉の意味と使い方を理解する				3・4(1)イ(カ)						○	○		75.0	74.3	0.7		
7	話合いの記録の仕方として適切なものを選択する	話合いの観点に基づいて情報を関係付ける	5・6ア									○		○		73.0	72.4	0.6	

課題の見られる設問（平均正答率の全国平均との差が「負」かつ大きい）

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等				評価の観点				問題形式			正答率(%)					
			話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質	関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解・技能	選択式	短答式	記述式	岡山県公立	全国公立	全国平均との差		
2一	故事成語の使い方として適切なものを選択する（五十歩百歩）	故事成語の意味と使い方を理解する				3・4(1)ア(イ)						○	○		48.4	55.8	-7.4		
2二	故事成語の使い方として適切なものを選択する（百聞は一見にしかず）	故事成語の意味と使い方を理解する				3・4(1)ア(イ)						○	○		43.7	49.9	-6.2		
1二(2)	漢字を書く（勝利をいわう）	学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書く				5・6(1)ウ(ア)						○		○		56.7	59.3	-2.6	
1一(2)	漢字を読む（街灯がつく）	学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読む				5・6(1)ウ(ア)						○		○		84.6	87.0	-2.4	

無解答率の高い設問（無解答率の全国平均との差が大きい）

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等				評価の観点				問題形式			無解答率(%)			
			話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質	関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解・技能	選択式	短答式	記述式	岡山県公立	全国公立	全国平均との差
6-1	「～たり、…たり」という表現に直して書く	複数の事柄を並列の関係で書く	5・6オ		5・6(1)イ(キ)			○		○		○	○	6.3	5.7	0.6	0
1-1(2)	漢字を読む(蛍紅がつく)	学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読む			5・6(1)ウ(ア)					○		○		2.7	2.5	0.2	

小学校 国語B

	児童数	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
岡山県(公立)	17,204人	5.5問/10問	54.5%	6.0問	2.4
全国(公立)	1,080,444人	5.5問/10問	55.5%	6.0問	2.4

成果の見られる設問（平均正答率の全国平均との差が「正」）

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等				評価の観点				問題形式			正答率(%)			
			話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質	関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解・技能	選択式	短答式	記述式	岡山県公立	全国公立	全国平均との差
3-2	【詩2】に対する山田さんの解釈として適切なものを選択する	詩の解釈における着眼点の違いを捉える			3・4オ				○		○			48.7	48.5	0.2	0
1-2	林さん㊸の質問の狙いとして適切なものを選択する	質問の意図を捉える	5・6エ				○				○			60.4	60.2	0.2	

課題の見られる設問（平均正答率の全国平均との差が「負」かつ大きい）

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等				評価の観点				問題形式			正答率(%)			
			話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質	関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解・技能	選択式	短答式	記述式	岡山県公立	全国公立	全国平均との差
3-3	【詩1】と【詩2】を比べて読んで考えたことを書く	二つの詩を比べて読み、自分の考えを書く	5・6ウ	5・6エ		○		○	○			○		46.2	48.1	-1.9	
1-3	大野さん㊸の発言に対し、手書きの立場から質問か意見を書く	立場を明確にして、質問や意見を述べる	5・6エ	5・6ウ		○	○	○				○		26.5	28.3	-1.8	
3-1(1)	【詩1】の表現の特徴として適切なものを選択する	二つの詩を比べて読み、表現の工夫を捉える		5・6エ	5・6(1)イ(カ)				○	○	○			78.7	80.4	-1.7	
2-1	付箋の内容を関係付けて、原田さんの疑問を書く	付箋に書かれた内容を関係付けながら、最初にもった疑問を捉える		5・6ウ					○			○		70.6	71.9	-1.3	
2-3	疑問を解決するために、目次や索引の中から必要となるページの番号を書く	課題を解決するために、目次や索引を活用して、本を効果的に読む		5・6イ								○		64.7	66.0	-1.3	
2-2	付箋の内容を関係付けて、野口さんのまとめを書く	分かったことや疑問に思ったことを整理し、それらを関係付けながらまとめて書く	5・6ウ	5・6ウ		○		○	○			○		25.8	26.9	-1.1	

無解答率の高い設問（無解答率の全国平均との差が大きい）

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等				評価の観点				問題形式			無解答率(%)				
			話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質	関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解・技能	選択式	短答式	記述式	岡山県公立	全国公立	全国平均との差	
3三	【詩1】と【詩2】を比べて読んで考えたことを書く	二つの詩を比べて読み、自分の考えを書く		5・6ウ	5・6エ		○	○	○				○	27.9	26.0	1.9		
1三	大野さんの発言に対し、手書きの立場から質問か意見を書く	立場を明確にして、質問や意見を述べる	5・6エ	5・6ウ			○	○	○				○	6.3	5.0	1.3		
2一	付箋の内容を関係付けて、原田さんの疑問を書く	付箋に書かれた内容に関係付けながら、最初にもった疑問を捉える			5・6ウ								○	9.3	8.2	1.1		
2二	付箋の内容を関係付けて、野口さんのまとめを書く	分かったことや疑問に思ったことを整理し、それらを関係付けながらまとめて書く		5・6ウ	5・6ウ		○	○	○				○	8.5	7.4	1.1		

小学校 算数A

	児童数	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
岡山県（公立）	17,207人	13.2問/17問	77.8%	14.0問	3.2
全国（公立）	1,080,657人	13.3問/17問	78.1%	14.0問	3.2

成果の見られる設問（平均正答率の全国平均との差が「正」）

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域				評価の観点				問題形式			正答率(%)				
			数と計算	量と測定	図形	数量関係	関心・意欲・態度	考え方	技能	知識・理解	選択式	短答式	記述式	岡山県公立	全国公立	全国平均との差		
1(5)	$100 - 20 \times 4$ を計算する	減法と乗法の混合した整数の計算をすることができる				40(2)ア				○			○	87.8	80.9	6.9		
6	コンパスを使った平行四辺形のかき方について、用いられている平行四辺形の特徴を選ぶ	作図に用いられている図形の約束や性質を理解している				40(1)アイ							○	54.1	52.0	2.1		
1(6)	$1 \div 3 + 2 \div 5$ を計算する	異分母の分数の加法の計算をすることができる	5A(4)オ							○			○	91.6	90.6	1.0		
5(1)	直径6cmの円の円周を求める式と答えを書く	円周の長さを、直径の長さを用いて求めることができる				50(1)エ				○			○	84.8	83.9	0.9		

課題の見られる設問（平均正答率の全国平均との差が「負」かつ大きい）

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域				評価の観点				問題形式			正答率(%)				
			数と計算	量と測定	図形	数量関係	関心・意欲・態度	考え方	技能	知識・理解	選択式	短答式	記述式	岡山県公立	全国公立	全国平均との差		
7	縦5cm、横11cm、高さ4cmの直方体の面⑦になる四角形を選ぶ	立体図形とその見取図の辺や面のつながりや位置関係について理解している				20(1)ウ 40(2)ア							○	65.5	69.4	-3.9		
2(2)	示された図を基に、青いテープの長さが白いテープの長さ(80cm)の0.4倍に当たるときの青いテープの長さを求める式を選ぶ	割合が1より小さい場合でも、比較量の求め方が(基準量) × (割合) になることを理解している	5A(3)ア										○	51.2	54.1	-2.9		
5(2)	1cm^3 の立方体を基に、示された直方体の体積を求める	体積の単位(1cm^3)と測定について理解している				5B(2)アイ							○	78.2	81.1	-2.9		

無解答率の高い設問（無解答率の全国平均との差が大きい）

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域				評価の観点				問題形式			無解答率(%)					
			数と計算	量と測定	図形	数量関係	関心・意欲・態度	考え方	技能	知識・理解	選択式	短答式	記述式	岡山県公立	全国公立	全国平均との差			
5(1)	直径6cmの円の円周を求める式と答えを書く	円周の長さを、直径の長さを用いて求めることができる			5C(1)エ					○			○		2.1	1.5	0.6		
5(2)	1cm ³ の立方体を基に、示された立方体の体積を求める	体積の単位(1cm ³)と測定について理解している		5B(2)アイ									○		2.1	1.8	0.3		
4(2)	8m ² に16人いるAの部屋について、1m ² あたりの人数を求める式を書く	単位量当たりの大きさの求め方を理解している		5B(4)ア									○		3.6	3.4	0.2		

小学校 算数B

	児童数	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
岡山県（公立）	17,201人	7.4問/13問	56.6%	8.0問	3.3
全国（公立）	1,080,442人	7.6問/13問	58.2%	8.0問	3.3

成果の見られる設問（平均正答率の全国平均との差が「正」）

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域				評価の観点				問題形式			正答率(%)					
			数と計算	量と測定	図形	数量関係	関心・意欲・態度	考え方	技能	知識・理解	選択式	短答式	記述式	岡山県公立	全国公立	全国平均との差			
4(1)	⑦のリズムを3回目に演奏するのは何小節目かを書く	繰り返しされるリズムの規則性(周期)を見だし、それを基に小節数を求めることができる	1A(1)イ			4D(1)ア							○		62.8	62.2	0.6		
2(2)	1目盛りを50m ³ として学校の水の使用量の表を棒グラフに表すとき、棒が縦20マスの中に入らない月を選び、そのわけを書く	最大値に着目して、棒グラフの棒を枠の中に表すことができない理由を記述できる		5B(2)ア		3D(3)ア							○		69.4	69.1	0.3		

課題の見られる設問（平均正答率の全国平均との差が「負」かつ大きい）

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域				評価の観点				問題形式			正答率(%)					
			数と計算	量と測定	図形	数量関係	関心・意欲・態度	考え方	技能	知識・理解	選択式	短答式	記述式	岡山県公立	全国公立	全国平均との差			
2(3)	6・7月の水の使用量が、1年間の水の使用量の1/4より多いことを説明するために用いる適当なグラフを選ぶ	全体と部分の関係を示すために用いるグラフを選択することができる		5B(2)ア		2D(3)3D(3)ア4D(4)イ							○	○	57.6	61.5	-3.9		
5(1)	畳の敷き方の約束を基に、残り4枚の長方形の板を置いた図をかく	示された条件を基に、残った平面に4つの長方形を敷き詰めることができる			2C(1)イ								○		62.0	65.7	-3.7		
4(2)	二人の④のリズムが重なる12小節目の12はどのような数であるかを書く	二人のリズムが重なる部分を、公倍数に着目して記述できる	5A(1)イ										○		57.1	60.5	-3.4		
5(3)	妹の身長を基に、妹の使いやすい箸の長さの求め方と答えを書く	示された情報を整理し、筋道を立てて考え、小数倍の長さの求め方を記述できる	5A(3)イ			5D(3)							○		30.2	33.0	-2.8		
5(2)	使いやすい箸の長さの目安を基に、一あた半の長さを表している図を選ぶ	示された情報を解釈し、基準量の1.5倍の長さを表している図を選択することができる		5A(3)ア									○	○	43.9	46.1	-2.2		

無解答率の高い設問（無解答率の全国平均との差が大きい）

設問 番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域				評価の観点			問題形式			無解答率(%)				
			数と 計算	量と 測定	図形	数量 関係	関 心・ 意 欲・ 態 度	考 え 方	技 能	知 識・ 理 解	選 択 式	短 答 式	記 述 式	岡山 県 公 立	全 国 公 立	全国平均との差 0	
4 (2)	二人の④のリズムが重なる12小節目の12はどのような数であるかを書く	二人のリズムが重なる部分を、公倍数に着目して記述できる	5A (1)イ					○				○	14.2	12.1	2.1		
5 (3)	妹の身長を基に、妹の使いやすい箸の長さの求め方と答えを書く	示された情報を整理し、筋道を立てて考え、小数倍の長さの求め方を記述できる	5A (3)イ			5D (3)		○				○	14.9	13.1	1.8		
2 (1)	6・7月の水の使用量 1500m^3 は、プールに入る水の量 250m^3 の何倍かを求める式と答えを書く	示された場面から基準量と比較量を捉え、倍を求めることができる	4A (3)イエ	5B (2)ア				○			○		3.7	3.0	0.7		
3 (1)	昨年の昼食時間を見直したときに、今年は準備の時間を何分間にすればよいかを書く	示された情報を基に、条件に合う時間を求めることができる						○			○		3.9	3.4	0.5		

中学校 国語 A

	生徒数	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
岡山県（公立）	16,444 人	25.0 問/32 問	78.2%	27.0 問	6.1
全国（公立）	1,017,965 人	25.4 問/32 問	79.4%	27.0 問	5.7

成果の見られる設問（平均正答率の全国平均との差が「正」）

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等					評価の観点					問題形式			正答率(%)			
			話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と語の特質	関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解・技能	選択式	短答式	記述式	岡山県公立	全国公立	全国平均との差		
8五1	歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す（まうけて）	歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読む				1 (1) ア (ア)										82.4	80.3	2.1	
8一1	漢字を書く（地域の人をショウタイする）	文脈に即して漢字を正しく書く				2 (1) ウ (イ)										59.0	57.6	1.4	
8三ア	適切な語句を選択する（よい結果を早く出したいときは、急がば回れといわれるように、かえって慎重に議論を進めるべきだ）	語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う				1 (1) イ (ウ)										60.3	59.2	1.1	

課題の見られる設問（平均正答率の全国平均との差が「負」かつ大きい）

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等					評価の観点					問題形式			正答率(%)			
			話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と語の特質	関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解・技能	選択式	短答式	記述式	岡山県公立	全国公立	全国平均との差		
8一2	漢字を書く（円のハンケイを求める）	文脈に即して漢字を正しく書く				2 (1) ウ (イ)										55.9	59.5	-3.6	
8四	国語辞典で調べたことを基に、語句の意味を書く（英気を養う）	辞書を活用して、語句の意味を適切に書く				2 (1) イ (イ)										56.6	59.9	-3.3	
8五2	古文に当てはまる言葉を昔話の中から抜き出す	古典と昔話とを対応させて内容を捉える				2 (1) ア (イ)										67.9	71.0	-3.1	
7一	文章を書くために使った付箋として適切なものを選択する	多様な方法で材料を集めながら考えをまとめる		2 ア												81.6	84.6	-3.0	

無解答率の高い設問（無解答率の全国平均との差が大きい）

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等					評価の観点					問題形式			無解答率(%)			
			話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と語の特質	関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解・技能	選択式	短答式	記述式	岡山県公立	全国公立	全国平均との差		
8四	国語辞典で調べたことを基に、語句の意味を書く（英気を養う）	辞書を活用して、語句の意味を適切に書く				2 (1) イ (イ)										16.5	12.3	4.2	
8五2	古文に当てはまる言葉を昔話の中から抜き出す	古典と昔話とを対応させて内容を捉える				2 (1) ア (イ)										11.5	9.0	2.5	
6一	二人の発言を聞いて、意見の相違点を整理する	目的に沿って話し合い、互いの発言を検討する		2 オ												7.8	5.9	1.9	
2二	仲直りができてうれしい主人公の気持ちを印象深く伝えるために書き換える	語句や文の使い方に注意して、伝えたい心情にふさわしい言葉に書き換える		2 エ												10.7	9.2	1.5	
8五1	歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す（まうけて）	歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読む				1 (1) ア (ア)										8.3	7.0	1.3	
4二	主語を置き換えて行事の記録を書き直す	叙述の仕方などを確かめて、適切に書き換える		1 エ												4.4	3.1	1.3	

中学校 国語B

	生徒数	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
岡山県（公立）	16,443人	4.3問/9問	48.1%	4.0問	2.4
全国（公立）	1,018,157人	4.6問/9問	51.0%	5.0問	2.3

成果の見られる設問（平均正答率の全国平均との差が「正」）

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等			評価の観点				問題形式			正答率(%)					
			話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と語の特質	関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解・技能	選択式	短答式	記述式	岡山県公立	全国公立	全国平均との差	
2-1	本とインターネットの内容を比較したときの説明として適切なものを選択する	複数の資料を比較して読み、要旨を捉える			1イ										32.4	31.4	1.0	0

課題の見られる設問（平均正答率の全国平均との差が「負」かつ大きい）

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等			評価の観点				問題形式			正答率(%)					
			話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と語の特質	関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解・技能	選択式	短答式	記述式	岡山県公立	全国公立	全国平均との差	
3-3	落語の演じ方を選択し、なぜそのように演じるのかを、本文を根拠に殿さまの気持ちを想像して書く	落語に表れているものの見方や考え方について、根拠を明確にして自分の考えを書く		1ウ	2エ	2(1)ア(ア)									41.1	46.5	-5.4	
2-2	本やインターネットの内容から答えが得られるものとして適切なものを選択する	複数の資料から必要な情報を読み取る			1カ										56.5	60.9	-4.4	
1-3	ノートを基に、標語から伝わってくる〈メッセージ〉と〈表現の工夫とその効果〉を書く	文章の構成や表現の仕方などについて、根拠を明確にして自分の考えを書く		2オ	2ウ	1(1)イ(オ)									43.9	48.2	-4.3	
2-3	水の中に浸すと、切手をきれいにすることができる理由を書く	資料から適切な情報を得て、伝えたい事実や事柄が明確に伝わるように書く		1ウ	2オ										25.0	28.4	-3.4	
3-2	殿さまの言葉が表す殿さまの姿として適切なものを選択する	落語に登場する人物の言動の意味を考え、その姿を想像する			2イ	2(1)ア(イ)									63.9	67.2	-3.3	
1-1	標語に使用されている表現の技法として適切なものを選択する	表現の技法について理解する				1(1)イ(オ)									62.4	65.3	-2.9	

無解答率の高い設問（無解答率の全国平均との差が大きい）

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等			評価の観点				問題形式			無解答率(%)					
			話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と語の特質	関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解・技能	選択式	短答式	記述式	岡山県公立	全国公立	全国平均との差	
2-3	水の中に浸すと、切手をきれいにすることができる理由を書く	資料から適切な情報を得て、伝えたい事実や事柄が明確に伝わるように書く		1ウ	2オ										24.6	16.0	8.6	
3-3	落語の演じ方を選択し、なぜそのように演じるのかを、本文を根拠に殿さまの気持ちを想像して書く	落語に表れているものの見方や考え方について、根拠を明確にして自分の考えを書く		1ウ	2エ	2(1)ア(ア)									13.0	8.6	4.4	
1-3	ノートを基に、標語から伝わってくる〈メッセージ〉と〈表現の工夫とその効果〉を書く	文章の構成や表現の仕方などについて、根拠を明確にして自分の考えを書く		2オ	2ウ	1(1)イ(オ)									5.9	3.4	2.5	

中学校 数学A

	生徒数	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
岡山県（公立）	16,430人	23.6問/36問	65.4%	25.0問	8.7
全国（公立）	1,018,328人	24.3問/36問	67.4%	26.0問	8.2

成果の見られる設問（平均正答率の全国平均との差が「正」）

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等					評価の観点			問題形式			正答率(%)				
			数と式	図形	関数	資料の活用	関心・意欲・態度	考え方	技能	知識・理解	選択式	短答式	記述式	岡山県公立	全国公立	全国平均との差 0		
1(3)	-7の絶対値を書く	絶対値の意味を理解している	1(1)ア							○		○	84.0	81.0	3.0			
10(4)	反比例のグラフから表を選ぶ	反比例について、グラフと表を関連付けて理解している			1(1)エ							○	○	48.1	45.7	2.4		
14(2)	樹形図を利用して、3枚の硬貨を同時に投げる時、表が2枚、裏が1枚出る確率を求める	樹形図などを利用して、確率を求めることができる				2(1)ア				○			○	67.3	65.1	2.2		
2(1)	「プールの水の深さは120cm以下である」という数量の関係を表した不等式を書く	数量の大小関係を不等式に表すことができる	1(2)エ										○		○	46.6	45.2	1.4

課題の見られる設問（平均正答率の全国平均との差が「負」かつ大きい）

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等					評価の観点			問題形式			正答率(%)			
			数と式	図形	関数	資料の活用	関心・意欲・態度	考え方	技能	知識・理解	選択式	短答式	記述式	岡山県公立	全国公立	全国平均との差 0	
5(3)	円錐の展開図において、側面のおうぎ形の半径を読み取る	円錐の展開図において、おうぎ形の半径が円錐の母線に対応していることを読み取ることができる		1(2)イ						○			○	62.9	67.7	-4.8	
10(2)	反比例の性質を表した記述を選ぶ	反比例の意味を理解している			1(1)イ							○	○	71.3	75.9	-4.6	
10(3)	$s=vt$ を基に、速さ v が一定のとき、時間 t と道のり s の関係について、正しい記述を選ぶ	与えられた式を基に、事象における2つの数量の関係が比例であることを判断することができる			1(1)エ							○	○	56.3	60.4	-4.1	
6(3)	n 角形の内角の和を求める式について、六角形の内角の和を求める過程を読み、 $(n-2)$ が表すものを選ぶ	n 角形の内角の和を求める式 $180 \times (n-2)$ における $(n-2)$ の意味を理解している			2(1)イ							○	○	43.8	47.8	-4.0	
11(1)	変化の割合が2である一次関数の関係を表した表を選ぶ	一次関数の変化の割合の意味を理解している			2(1)イ							○	○	43.3	47.3	-4.0	

無解答率の高い設問（無解答率の全国平均との差が大きい）

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等				評価の観点				問題形式			無解答率(%)					
			数と式	図形	関数	資料の活用	関心・意欲・態度	考え方	技能	知識・理解	選択式	短答式	記述式	岡山県公立	全国公立	全国平均との差 0			
9	与えられた表を基に、宅配サービスの重量と料金の関係を、「…は…の関数である」という形で表現する	関数の意味を理解している			1 (1) ア								○		○		22.4	17.9	4.5
3 (4)	連立二元一次方程式を解く	簡単な連立二元一次方程式を解くことができる			2 (2) ウ												13.1	10.0	3.1
8	証明の方針を立てる際に着目すべき図形を指摘する	証明のための構想や方針の必要性和意味を理解している			2 (2) イ、ウ												10.2	7.2	3.0
10 (1)	$x=2, y=6$ の比例の式を求める	比例の関係を式に表すことができる			1 (1) エ												15.8	13	2.8
5 (3)	円錐の展開図において、側面のおうぎ形の半径を読み取る	円錐の展開図において、おうぎ形の半径が円錐の母線に対応していることを読み取ることができる			1 (2) イ												10.1	7.4	2.7
3 (2)	一元一次方程式 $(x-1)/3=2$ を解く	分数を含む一元一次方程式を解くことができる			1 (3) ウ												15.0	12.4	2.6
2 (3)	$a=2, b=3$ のときの式 ab^2 の値を求める	指数を含む文字式に数を代入して式の値を求めることができる			2 (1) イ												8.0	5.9	2.1
5 (1)	直方体の1つの面の対角線を含む直線と平行な面を書く	空間における直線と平面の平行について理解している			1 (2) ア												6.3	4.2	2.1

中学校 数学B

	生徒数	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
岡山県（公立）	16,425人	8.4問/15問	55.9%	9.0問	4.1
全国（公立）	1,018,365人	9.0問/15問	59.8%	10.0問	3.9

成果の見られる設問（平均正答率の全国平均との差が小さい）

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等				評価の観点				問題形式			正答率(%)					
			数と式	図形	関数	資料の活用	関心・意欲・態度	考え方	技能	知識・理解	選択式	短答式	記述式	岡山県公立	全国公立	全国平均との差 0			
4 (2)	$\angle BAC=110^\circ, BD=AD$ のとき、 $\angle DAE$ の大きさを求める	付加された条件の下で、証明を振り返って考え、事柄を用いることができる			2 (2) ア、ウ												22.4	23.3	-0.9

課題の見られる設問（平均正答率の全国平均との差が「負」かつ大きい）

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等				評価の観点			問題形式			正答率(%)				
			数と式	図形	関数	資料の活用	関心・意欲・態度	考え方	技能	知識・理解	選択式	短答式	記述式	岡山県公立	全国公立	全国平均との差	
																0	
3 (2)	大地さんの求め方を基に、ウェーブをする人数と時間について、2つの数量の間の関係を説明する	事象を理想化・単純化して問題解決した結果を解釈し、数量の関係を数学的に説明することができる			1 (1) ア、エ			○					○	54.5	62.3	-7.8	
6 (1)	弟が駅に着いたときの、兄のいる地点から駅までの道のりを求める	与えられたグラフを、事象に即して解釈することができる			2 (1) イ、エ			○					○	57.1	62.7	-5.6	
3 (1)	与えられた表やグラフから、人数が24人のときに6.0秒かかったことを表す点を求める	与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができる			1 (1) ウ				○				○	82.0	87.5	-5.5	
2 (2)	2つの偶数の積は8の倍数になるとは限らないことの説明を完成するために、予想が成り立たない例をあげ、その積を求める	事柄が成り立たない理由を説明する場面で、反例をあげることで、その説明を完成することができる			2 (1) イ、ウ			○					○	60.4	65.4	-5.0	
2 (3)	2つの偶数の商についての正しい記述を選び、その理由を説明する	予想された事柄が成り立たないことを判断し、その事柄が成り立たない理由を説明することができる			2 (1) イ、ウ			○					○	39.2	44.2	-5.0	

無解答率の高い設問（無解答率の全国平均との差が大きい）

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等				評価の観点			問題形式			無解答率(%)				
			数と式	図形	関数	資料の活用	関心・意欲・態度	考え方	技能	知識・理解	選択式	短答式	記述式	岡山県公立	全国公立	全国平均との差	
																0	
3 (2)	大地さんの求め方を基に、ウェーブをする人数と時間について、2つの数量の間の関係を説明する	事象を理想化・単純化して問題解決した結果を解釈し、数量の関係を数学的に説明することができる			1 (1) ア、エ			○					○	38.1	30.1	8.0	
6 (3)	兄の出発時間を変えないとき、兄の進む様子を表すグラフの両端の2点を求め、そのグラフから兄の速さを求める方法を説明する	グラフの特徴を事象に即して解釈し、結果を改善して問題を解決する方法を説明することができる			2 (1) イ、エ			○					○	25.2	17.5	7.7	
4 (1)	2つの線分の長さが等しいことを証明する	図形の性質を、構想を立てて証明することができる			2 (2) イ、ウ			○					○	28.5	22.5	6.0	
1 (3)	図形の性質を用いて、横断幕が木にまったく隠れない最も低い位置を求める方法を言葉や図で説明する	事象を理想化・単純化し、その結果を数学的に解釈し、問題解決の方法を説明することができる			1 (2) ア、イ			○					○	17.9	12.7	5.2	
6 (1)	弟が駅に着いたときの、兄のいる地点から駅までの道のりを求める	与えられたグラフを、事象に即して解釈することができる			2 (1) イ、エ			○					○	14.0	9.0	5.0	

2 平均正答率が上昇した学校と下降した学校の学校質問紙調査結果の比較

【分析の視点】

1年間の学校の取組の成果を分析するため、県平均以上の正答率の学校の中で平均正答率が上昇した幅の大きい30校（上昇30校）と、県平均以下の正答率の学校の中で平均正答率が下降した幅の大きい30校（下降30校）を抽出し、学校質問紙の結果を比較した。

～キーワードは「継続」と「徹底」～

分析の結果から、教職員が一体となって、学力調査結果を分析し、学校の方向性を定め、具体的な取組を打ち出し、それを継続して粘り強く徹底している学校が成果を挙げていると言える。

<平均正答率が上昇した学校に見られる具体的な特徴>

【児童生徒の様子】

- 小・中学校共通
 - 学級やグループなどの話し合いなどの活動で、相手の考えを最後まで聞くことに対して、「その通りだと思う」「どちらかといえば、そう思う」と回答した割合が高い。（グラフ①）

【学力向上に向けた取組】

- 中学校
 - 放課後を利用した補足的な学習サポートを「週1回以上実施している」と回答した割合が高い。（グラフ②）

【指導方法・学習規律】

- 小・中学校共通
 - 各教科の指導のねらいを明確にした上で、言語活動を適切に位置づけた指導を「よく行った」「どちらかといえば、行った」と回答した割合が高い。（グラフ③）
 - 前年度、学習規律の徹底を「よく行った」「どちらかといえば、行った」と回答した割合が高い。（グラフ④）
 - 教科や総合的な学習の時間、あるいは朝や帰りの会などにおいて、地域や社会で起こっている問題や出来事を学習の題材として取り扱うことについて「よく行った」「どちらかといえば、行った」と回答した割合が高い。（グラフ⑤）
- 小学校
 - 総合的な学習の時間で課題設定からまとめ・表現に至る探究活動を重視した指導を「よく行った」「どちらかといえば、行った」と回答した割合が高い。（グラフ⑥）

【調査結果の活用】

- 小・中学校共通
 - 全国学力・学習状況調査の自校の結果を分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映を「よく行った」と回答した割合が高い。（グラフ⑦）

【国語科・算数（数学）科の指導方法】

- 小・中学校共通
 - 国語の指導として、書く習慣を付ける授業を「よく行った」「どちらかといえば、行った」と回答した割合が高い。（グラフ⑧）
 - 国語の指導として、漢字・語句などの基礎的・基本的な事項を定着させる授業を「よく行った」「どちらかといえば、行った」と回答した割合が高い。（グラフ⑨）
 - 算数・数学の指導として、実生活における事象との関連を図った授業を「よく行った」「どちらかといえば、行った」と回答した割合が高い。（グラフ⑩）

【家庭学習】

○ 小・中学校共通

- 家庭学習の取組として、調べたり文章を書いたりする宿題を与えることを「よく行った」「どちらかといえば、行った」と回答した割合が高い。(グラフ⑪)

【教員研修・教職員の取組】

○ 小・中学校共通

- 授業研究を伴う校内研修を「年 11～12 回以上」行ったと回答した割合が高い。(グラフ⑫)

○ 小学校

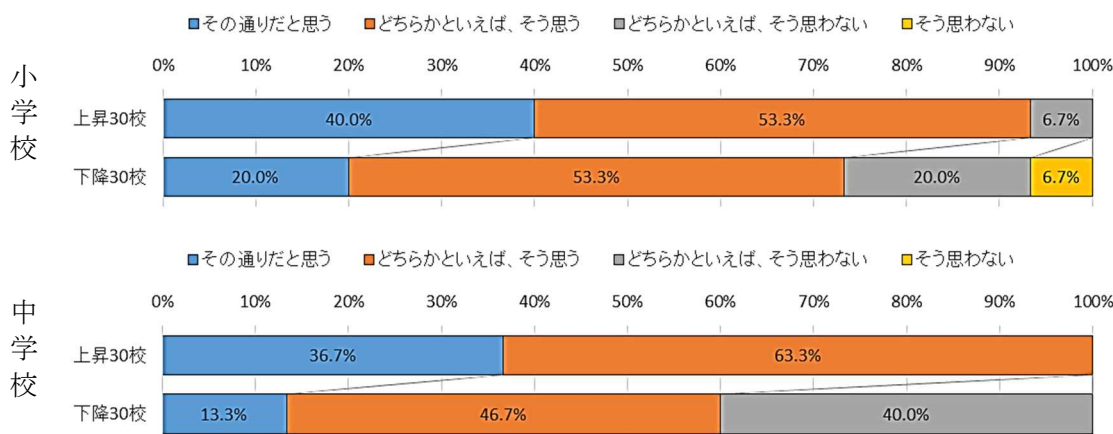
- 学校でテーマを決め、講師を招聘するなどした校内研修を「よくしている」と回答した割合が高い。(グラフ⑬)
- 学校全体の学力傾向が課題の全教職員間での共有について「よくしている」と回答した割合が高い。(グラフ⑭)

※ 児童生徒個人の成績が影響しやすい小規模校（受験者数 20 人未満）の学校は除いた。

※ 年度により平均正答率が異なるため、標準化スコア（全国平均＝100）を用いて平均正答率の変化を算出した。

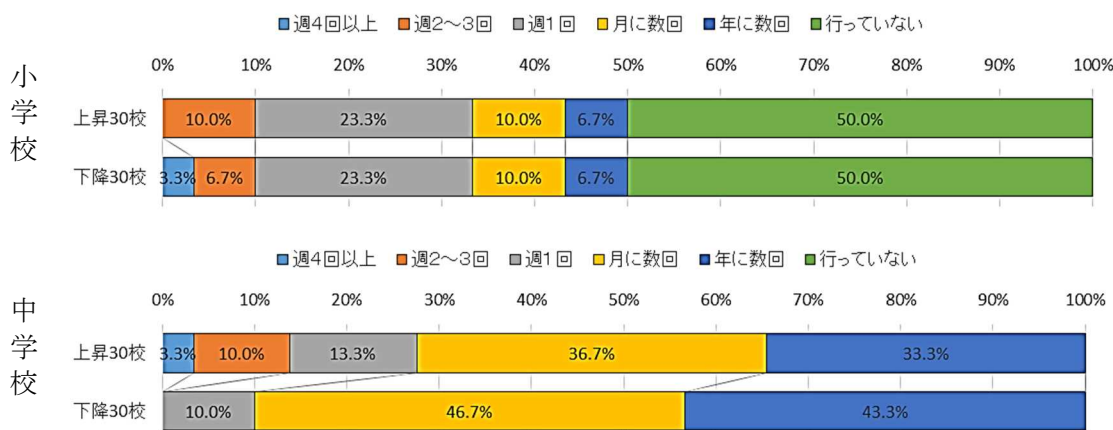
グラフ①

調査対象学年の児童（生徒）は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、相手の考えを最後まで聞くことができていると思いますか。



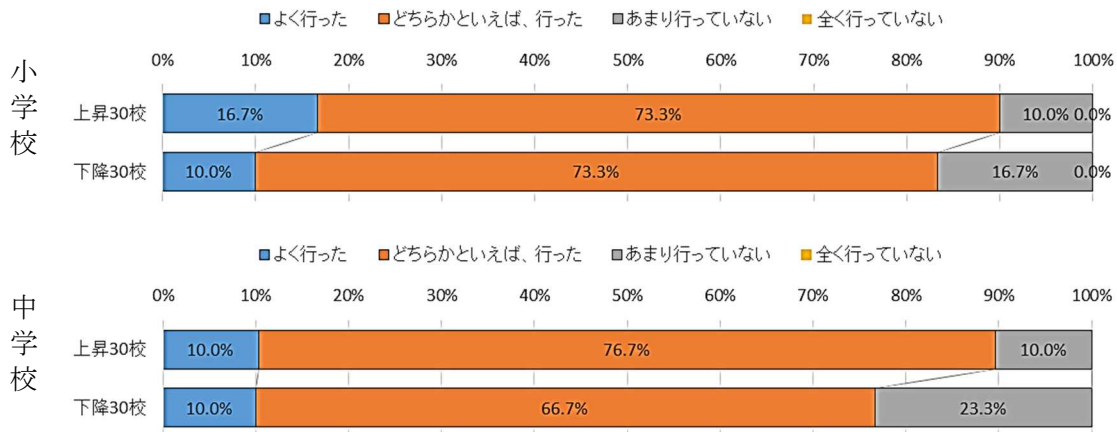
グラフ②

調査対象学年の児童（生徒）に対して、前年度に、放課後を利用した補充的な学習サポートを実施しましたか



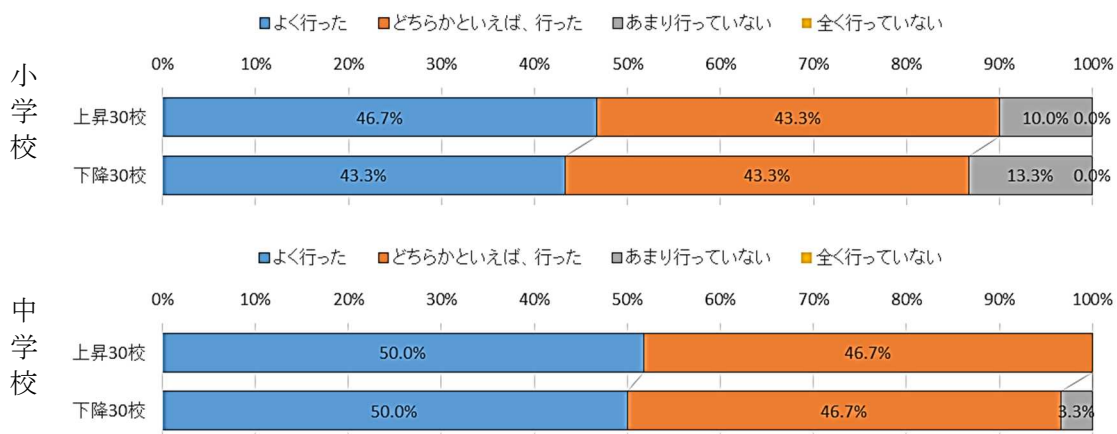
グラフ③

調査対象学年の児童（生徒）に対して、前年度までに、各教科等の指導のねらいを明確にした上で、言語活動を適切に位置付けましたか



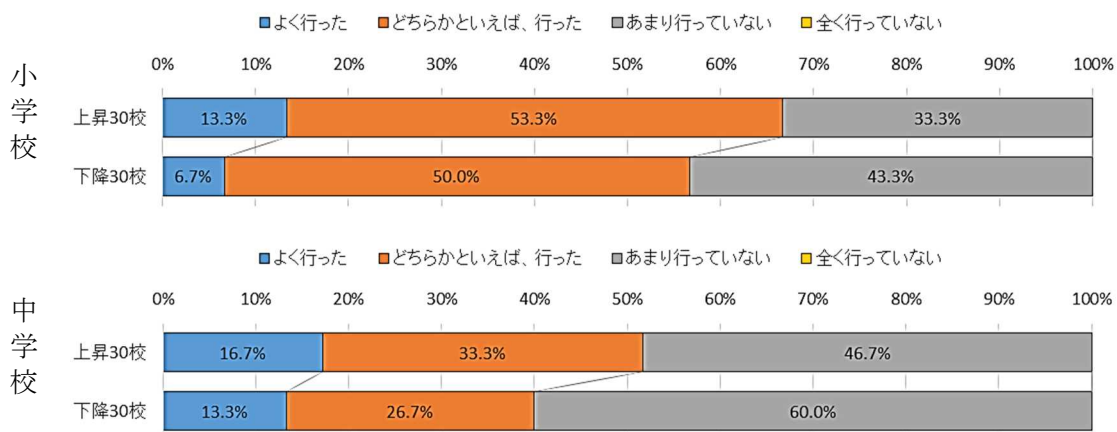
グラフ④

調査対象学年の児童（生徒）に対して、前年度までに、学習規律（私語をしない、話をしている人の方を向いて聞く、聞き手に向かって話をする、授業開始のチャイムを守るなど）の維持を徹底しましたか



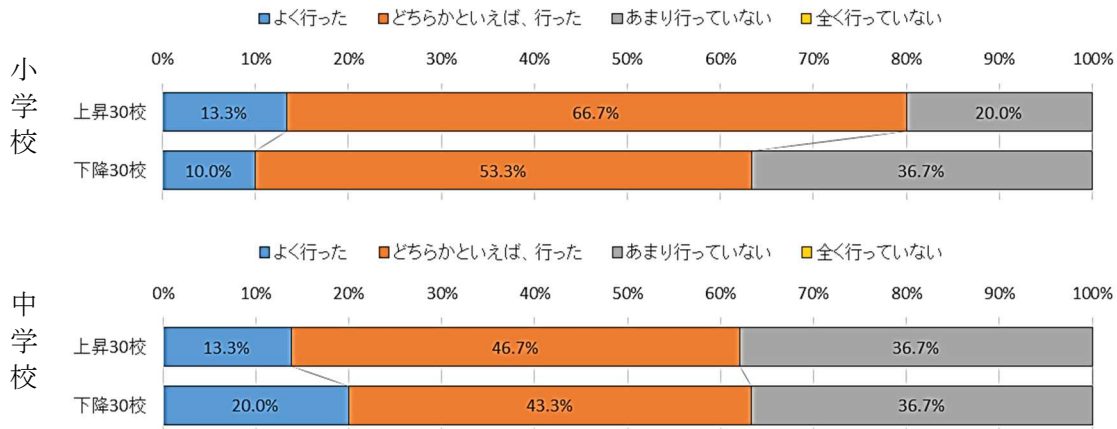
グラフ⑤

調査対象学年の児童（生徒）に対して、前年度に、教科や総合的な学習の時間、あるいは朝や帰りの会などにおいて、地域や社会で起こっている問題や出来事を学習の題材として取り扱いましたか



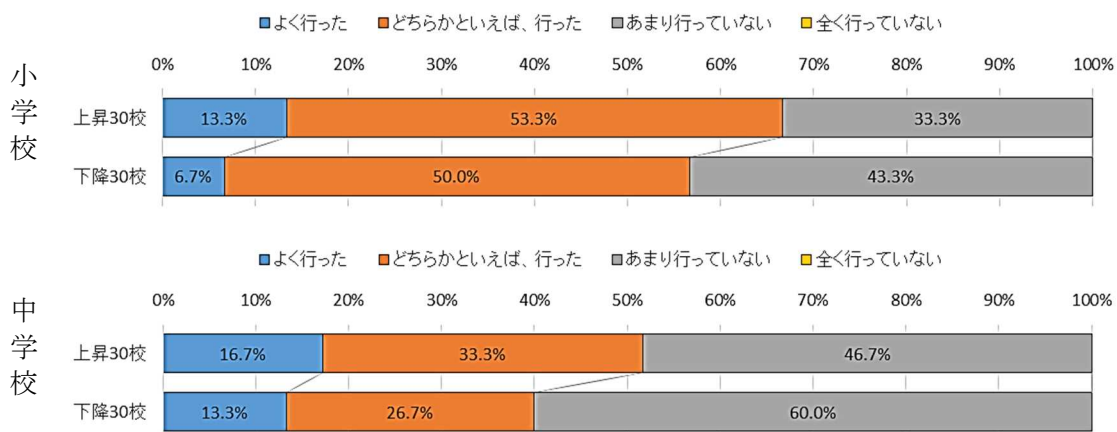
グラフ⑥

調査対象学年の児童（生徒）に対して、前年度までに、総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしましたか



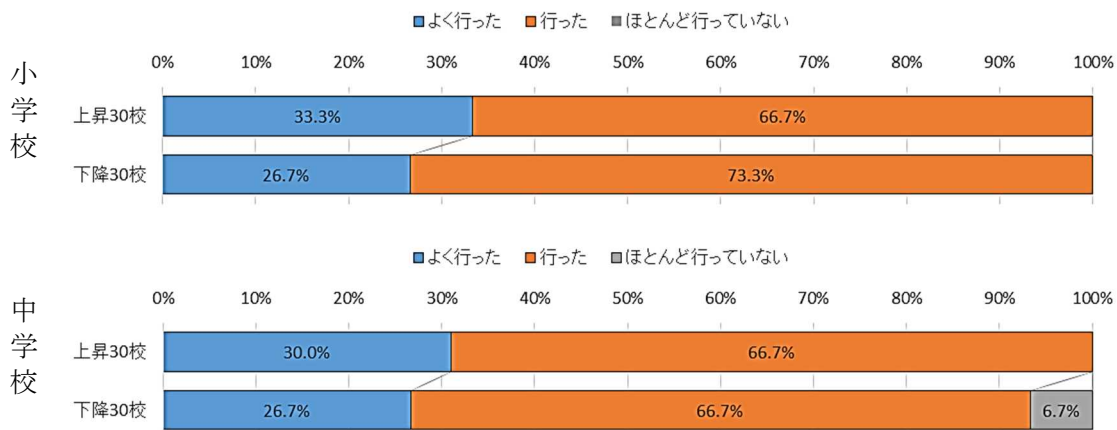
グラフ⑤

調査対象学年の児童（生徒）に対して、前年度に、教科や総合的な学習の時間、あるいは朝や帰りの会などにおいて、地域や社会で起こっている問題や出来事を学習の題材として取り扱いましたか



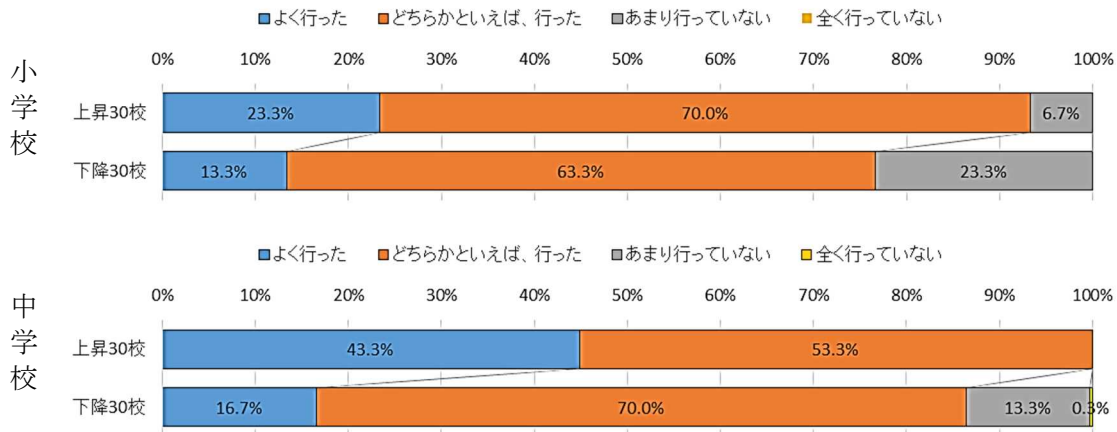
グラフ⑦

平成25年度全国学力・学習状況調査の自校の結果を分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映を行いましたか



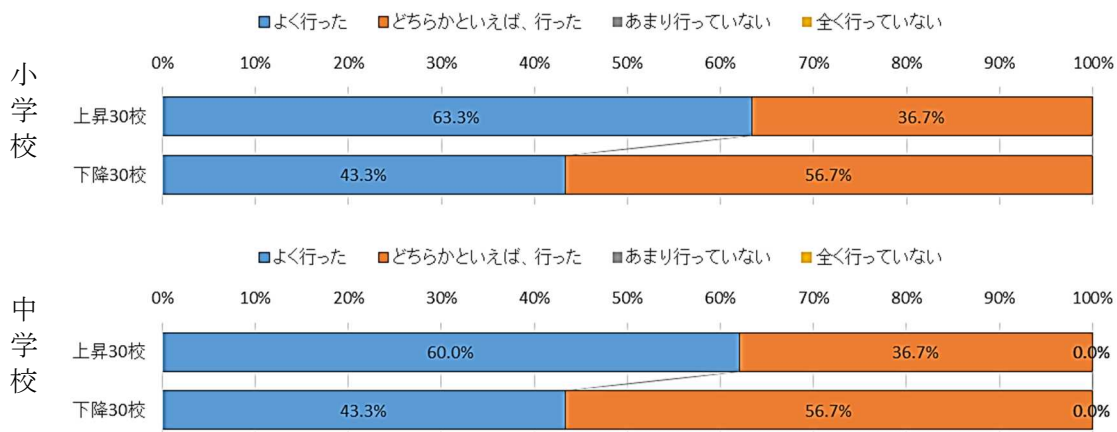
グラフ⑧

調査対象学年の児童（生徒）に対する国語の指導として、前年度までに、書く習慣を付ける授業を行いましたか



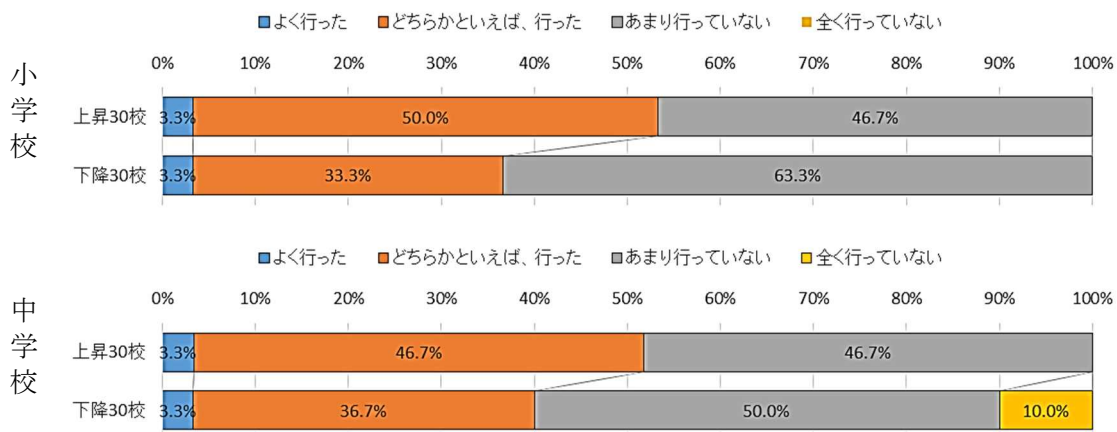
グラフ⑨

調査対象学年の児童（生徒）に対する国語の指導として、前年度までに、漢字・語句など基礎的・基本的な事項を定着させる授業を行いましたか



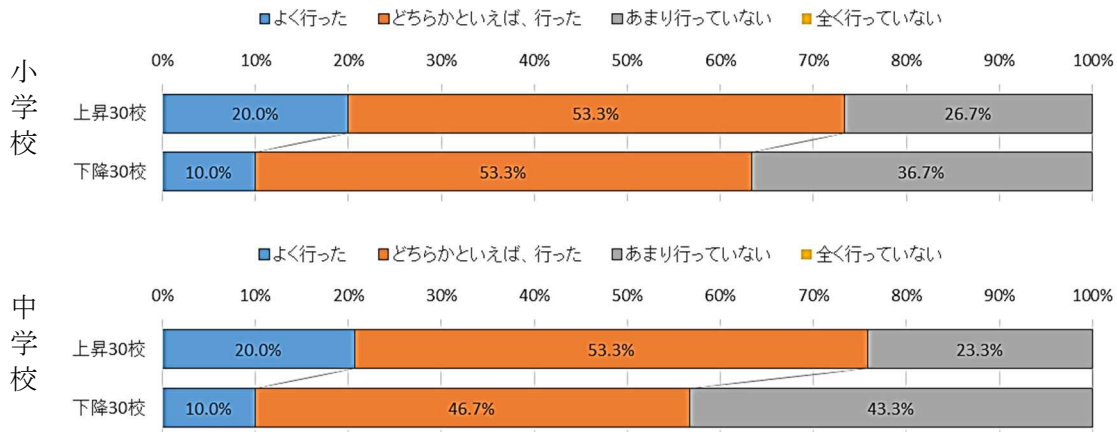
グラフ⑩

調査対象学年の児童（生徒）に対する算数の指導として、前年度までに、実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか



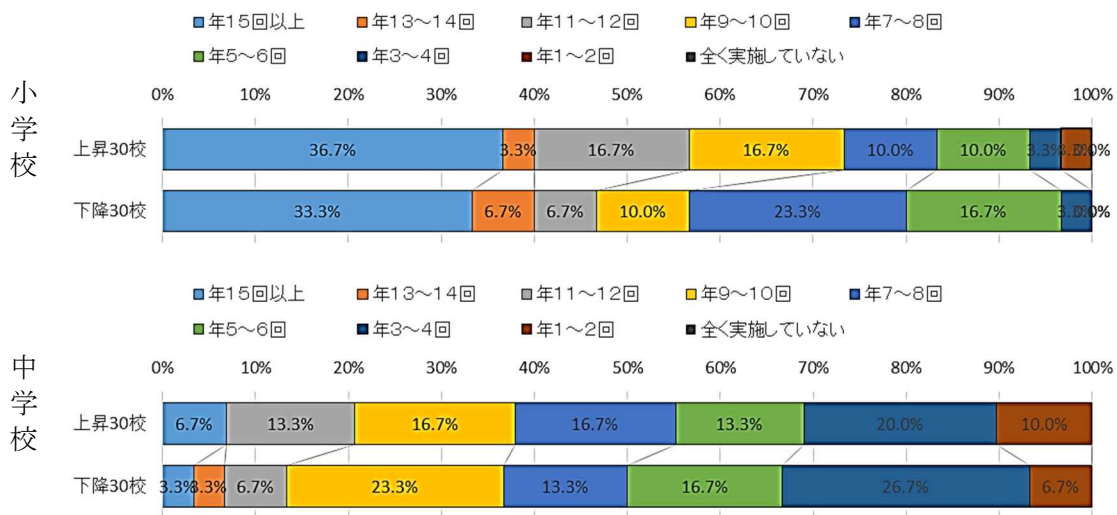
グラフ⑪

調査対象学年の児童（生徒）に対して、前年度までに、家庭学習の取組として、調べたり文章を書いたりしてやる宿題を与えましたか（国語／算数・数学共通）



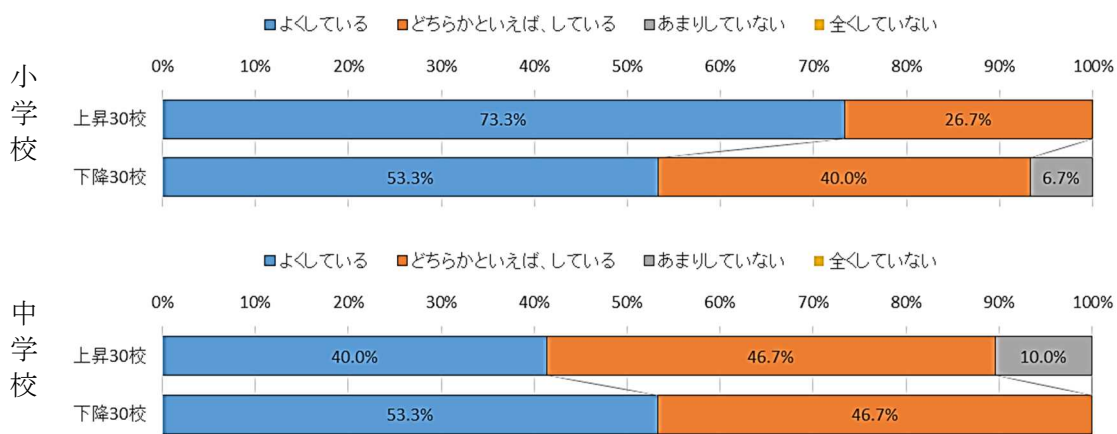
グラフ⑫

授業研究を伴う校内研修を前年度に何回実施しましたか



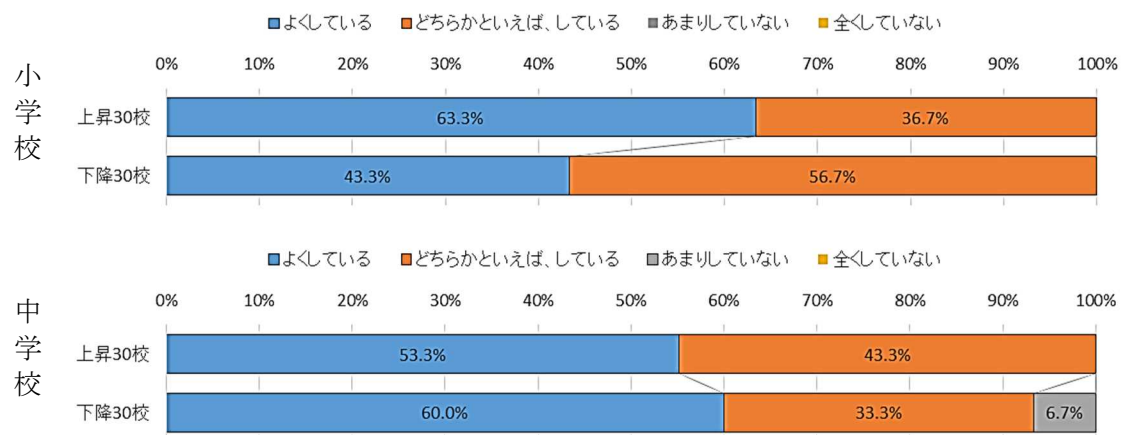
グラフ⑬

学校でテーマを決め、講師を招聘するなどの校内研修を行っていますか



グラフ⑭

学校全体の学力傾向や課題について、全教職員の間で共有していますか



IV 参考資料

1 市町村教育委員会「学力・学習状況改善プラン」(抜粋)

<倉敷市>

課題
<p>① 国語の漢字の読み書き、算数の計算問題等、経年的に課題であった基礎問題に、改善の傾向が見られるが、今後も継続的な課題として取り組む必要がある。</p> <p>② 活用問題(全国調査)については、国語では今年度も県平均を上回っていたが、算数では昨年度より全国比で2.2ポイント、県との比較では1.8ポイント下回る結果となった。国語だけでなく、各教科等の授業でも、時間制限・字数制限を設定した記述の取組が、さらに定期的・継続的に実施されるよう、学校訪問や研究会において啓発を図る必要がある。</p> <p>③ 放課後等の補充学習については、各校で実態に合わせて工夫した取組が実施されている。さらに、時間帯や実施対象児童、実施内容等を工夫しながら取り組んでいく必要がある。</p> <p>④ 今年度の調査結果から、春休み期間中の取組の重要性が明らかになっている。昨年度から冊子として配付している「春休みの課題集」について、その内容をより充実したものに改善する必要がある。</p> <p>⑤ 授業外の学習時間は、全国及び県との比較で上回っているが、内容等さらに充実させる必要がある。</p>

課題解決に向けた取組
<p><すぐに取り組む内容></p> <p>① 研修会・学校訪問等で、各校と次のことに共通理解を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学力・学習状況改善プランの内容について ・ 全国及び県調査、たしかめテストの活用による「振り返りのサイクル」の確立について <p>② 家庭学習時間、携帯電話やスマートフォンの使用時間等、倉敷市の児童生徒の「学力・学習状況」に関する「広報くらしき」への掲載。</p> <p><中・長期的に取り組む内容></p> <p>① 学力向上に関する各事業の計画・改善。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業力アップ支援事業 ・ 少人数指導による「確かな学力」向上支援事業 ・ 学習支援ボランティア活用事業 等 <p>② 「春休みの課題集」の作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 基礎問題と活用問題をバランスよく掲載。 ・ 過去の学年の復習内容の掲載。 ・ 配付学年の拡充の検討。 <p>③ H27以降に向けて、春休みだけでなく、その前後(年度末・年度当初)も活用できる課題集作成のための計画立案を行う。</p>

<津山市>

課題
<p>① 取組がやや単純化、矮小化された傾向があり、特に、活用問題等への対策の意識が低かった。調査問題で課題とされたこと(例:割合や小数倍、の意味や面積に関する問題、1文を2文に直したり、条件が示された中での記述式の問題など)の授業中における具体的な取組が不十分であった。</p> <p>② 小中学校ともに、無解答率がほとんどの問題で上昇していることは、日常的な指導のあり方を各校</p>

課題解決に向けた取組
<p><すぐに取り組む内容></p> <p>① 設問毎の比較表を作成し、つまずきや課題を明確にし、各学校の授業改善や教科指導等に活用する。</p> <p>② 各学校においては、中学校ブロックでの検証をもとに、校区の取組も視野に入れた「学力・学習状況改善プラン」を作成し、今後の指導に活用する。</p> <p><中・長期的に取り組む内容></p> <p>① 検証結果を踏まえ、本市の教育課題を明確にししながら、今後の教育施策の改善や現在取り組んでいる「げんぼプロジェクト」への反映を図る。また、日常授業の改善と学習指導の充実に取り組む。</p> <p>② 家庭での学習習慣については、引き続き課題が見ら</p>

で見直すことが必要である。(ノートに等に意見を書かせる場面や、授業のまとめ、日常的なテストやプリント等への向き合わせ方など)

③ 小・中学校とも、授業と家庭学習をつなぐ意識や家庭時間の確保については、依然として課題が見られる。

④ テレビの視聴時間は減少傾向にあるが、ケータイやスマホ等SNSの使用時間や使用方法のあり方の検討が必要。

れるので、家庭学習時間についての実態把握を行うとともに、学校と家庭及び地域が一体となった取組の充実を図る。(生活実態調査の実施)

③ 家庭での生活習慣や生活リズム等の定着をより一層家庭に働きかける。(チャレンジハッピーデーの取組)
⇒【学力向上に向けた7つの取組】

【全体】

1. 教務主任(研究主任)会議の開催(校種教科別4回)

【課題校・指導力】

2. 改善プランの進捗状況の確認及び学力調査官等を招聘しての研修会の開催

【中学数学】

3. 中学校数学「活用問題」プロジェクト(仮称)

【若手教員指導力】

4. 若手教員を対象とした「げんぼ塾」(自主研修会)

【課題校】

5. 学習支援員の配置 小中8校 10月～

【全体】

6. 小4、5、中2「たしかめテスト」へ向けた取組

7. 授業改革推進員事業とタイアップした授業改善

<玉野市>

課題

① 小学校においては、全教科で県平均を上回るとともに、国語A・B、算数Aにおいて全国平均を上回った。算数Bについても、全国平均との差が縮小した。

② 中学校においては、国語A・Bが県平均を上回ったが、数学A・Bは全国・県平均に届かず、課題が見られた。

③ 理論的に自分の考えをまとめ、書いて表現し、説明する力を高める必要がある。

④ 無解答が減少傾向にあるが、依然として全国平均より高い項目が見られるので、自信をもって課題に取り組むよう引き続き働きかける必要がある。

課題解決に向けた取組

昨年度の取組の方向性がある程度正しかったことが推察されるため、

① 授業改善によるわかる授業づくりの継続(授業のユニバーサルデザイン化)

② 基礎基本の定着学習の推進

③ 家庭での過ごし方の啓発

の3つの重点取組を引き続き行う。

<教育委員会が中心となって行う対策>

- ・ 各種会議、研修において、本市の児童生徒の実態と対策について説明し、今後の実践に反映させる。
- ・ 11月11日に県の指導主事を招聘し、主に中学校数学の力を伸ばすことをテーマとして学力向上研修会を開催する。
- ・ 学校訪問の協議の場や、校内研修等において、指導主事が直接教員に対して、子どもたちの学力や学習状況、また、解決のための方策について説明する。

<各学校における対策>

- ・ 授業のユニバーサルデザイン化の推進による「わかる・できる」授業づくりをさらに研究・実践する。
- ・ 中学校区での学力向上研修会等、具体的な連携を強化する。
- ・ 個々の児童生徒のつまづきを支援するために、補充学習・個別支援を計画的に実施する。
- ・ 国や県の問題を授業の中でも活用し、課題解決力を確実に育成する。
- ・ 県の学習到達度確認テスト、市の小学校基礎計算力プリントを、授業や家庭学習で活用し、基礎学力を確実に育成する。

- ・ 授業日、土、日曜日の家庭での過ごし方を再度見直し、宿題の質と量の適正化をすすめ、学習時間の確保を図るとともに、保護者に対しても、子どもの家庭での過ごし方について、見守りを啓発する。
- <児童生徒・家庭に対して働きかける対策>
- ・ 授業日、休業日の家庭での過ごし方、学習への取り組みについて、継続して指導を行い、家庭の協力を仰ぐ。
 - ・ 家庭学習の手引きの有効活用と実践を図る。
 - ・ 長期休業中の課題について児童生徒の実態に即した内容のものを与え、確実にその課題に取り組みせる。
 - ・ 長期休業中の生活の仕方について、学年相応の学習時間、手伝いの時間等を提示し、児童生徒の計画を作成させるとともに、保護者に対しても、家庭学習の状況を把握し、声かけをしてもらう。

<笠岡市>

課題
<p><学力調査結果から></p> <ol style="list-style-type: none"> ① 学校間の平均正答率の差がこれまでの調査よりも拡大している。 ② 中学校において、すべての科目で平均正答率が県平均を下回った。昨年度は国語Aにおいて全国平均を上回ったことから、市全体としての取組の成果はまだ表れていないものと考ええる。 ③ 算数A、算数B以外では、下位層の子どもの割合が比較的高く、県・全国よりも下位に偏っている。 <p><質問紙調査結果から></p> <p>【小学校】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 学習規律の維持徹底、学習方法に関する指導について、児童生徒の肯定的な回答率が低い。 ② 国語における文章に書かせる指導、目的や相手に応じて話したり聞いたりする授業、算数における実生活における事象との関連を図った授業の実施が十分でないことが考えられる。 ③ 国語における漢字・語句など基礎的・基本的な事項を定着させる授業、算数における計算問題などの反復練習をする授業が十分に実施できていないことが考えられる。 <p>【中学校】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 授業以外の勉強時間が少なく、家で計画を立てて勉強したり、予習・復習を行ったりする時間が不

課題解決に向けた取組
<p><学力向上に向けた4つの柱></p> <ol style="list-style-type: none"> ① 学校を挙げた学習規律の徹底 ② 「基礎的・基本的な知識・技能の習得」を重視する授業改善 ③ 「思考力・判断力・表現力の育成」を図る授業の充実 ④ 家庭学習・補充学習等の充実 <p><重点事項></p> <ol style="list-style-type: none"> ① 各学校から提出される「学力・学習状況改善プラン」等に基づいて、それぞれの学校が立てた授業改善プランについて把握する。特に課題のある学校とは、共に今後の方策を考え、より具体的で実効性の高いプランとなるように検討を加える。 ② 授業改善の様子を視察・聞き取りするための学校訪問を、必要に応じて実施する。学校訪問は同一校に対して複数回行い、授業改善に向けた取組を支援したり、改善の様子を確認したりする。 ③ 特に中学校対象の授業改善のための研修会を、今年度中に計画する。公開授業と著名な実践者による助言・講演を実施し、教科・領域を超えた授業改善の取組について、具体例を通して共通理解していくことを予定している。

<p>足している。</p> <p>② 授業中に生徒の間に話し合う活動が十分でない。</p> <p>③ 授業の最後に振り返る活動が十分でないことが考えられる。</p> <p>④ 自分の考えを理由が分かるように話したり書いたりすること、段落や話のまとまりごとに内容を理解すること等が十分でないことが考えられる。</p> <p>⑤ 「習得」したことを「活用」させる言語活動の充実が必要である。</p>

--

<井原市>

<p>課題</p> <p>① 小国語A B、算数B、中国語B、数学A Bが全国平均正答率より低い。</p> <p>② どの科目においても、論理的思考により文章を理解する、文章を作成する力を向上させること。</p> <p>③ 問題を図式化して考え、問題解決に取り組ませる指導をさらにすすめること。</p> <p>④ 生活習慣やメディアの利用時間と家庭学習時間のバランスを啓発・指導をさらにすすめること。</p>
--

<p>課題解決に向けた取組</p> <p><すぐに取り組む内容></p> <p>① 授業改善・授業の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「岡山型学習スタンダード」の徹底 <p>② 基礎基本の徹底</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 補充学習の充実：放課後などを利用し、国語・算数を中心とした基礎学力定着プリントや学習到達度確認テスト等を行う。 <p>③ 学力テスト過去問題の実施：A・B問題を活用し、計画的に弱点分野を中心に実施する。</p> <p><中・長期的に取り組む内容></p> <p>① 井原市学力・学習状況改善プランの徹底</p> <p>② 学力向上研修会の継続</p> <p>③ 授業改善・授業の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 校内研修の充実：積極的な校内授業研究、校内研修を行い、外部講師を活用するなどして指導力の向上を図る。 ・ 学習集団づくりの充実：Q-Uの活用 <p>④ 基礎基本の徹底</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 言語活動の充実（「話す・聞く・書く」）に全教科の授業で取り組む。 ・ 家庭学習の充実：課題の出し方を工夫する。 <p>⑤ 生活習慣の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 折に触れ、児童・生徒・保護者に生活習慣やメディア利用時間のルールづくり、家庭学習の習慣づけを促す。 <p>⑥ 小・中連携の促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教科指導、生活指導の連携を図る。
--

<総社市>

<p>課題</p> <p>① 小学校においては、故事成語や図形などにおいて既習事項や既習事項を活用して考える問題において、全国平均を大きく下回った。</p> <p>② 中学校においては、複数の資料か</p>

<p>課題解決に向けた取組</p> <p><すぐに取り組む内容></p> <p>① 各小・中学校の学力・学習状況調査結果及び今後の取り組みについての情報を共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「総社っ子輝きプラン」に基づく結果検証を市内小・中学校教職員で共有できるようにする。

ら必要な情報を読み取ったり、人物の言動の意味を考えてその姿を想像する問題、空間図形の位置関係に着目して考察したり、グラフを効果的に活用する問題において全国平均を大きく下回った。

- ③ 小・中学校ともに、学校間でそれぞれの問題の正答率の差が大きい。
- ④ 小・中学校ともにテレビやDVD視聴、ゲームをする時間が多い。また中学校においては家庭学習の時間が著しく少ない。

<中・長期的に取り組む内容>

- ① 基礎・基本の定着のため、言語活動を重視した分かる授業づくりを推進する。
- ② 学校適応促進のため、協同学習、ピア・サポート、SEL、品格教育等の「だれもが行きたくなる学校づくり」を推進する。
- ③ 中1ギャップの解消のため、低学年からの学習習慣づくりと、各中学校区の保幼小中（12年間）連携による学習のスタンダード化を推進する。
- ④ 人間力向上（自ら考え自ら実行できる、人に敬意を表する）のため、心を磨く教育の充実を図る。

<高梁市>

課題

<小・中共通>

- ① 落ち着いた学習環境である。課題としては、学習規律の徹底の弱さと学期末・学年末等での学習内容の定着確認不足が課題。

<小学校>

- ① テレビ視聴やゲーム・パソコンを使う時間は長く、学習時間が短い児童の割合が全国よりも高い。
- ② 国語Aでは、上位層が少なく全国との差が広がった。課題のあった「書くこと」は改善されたが、「読むこと」（▲7. 5）（情景描写の効果、新聞の投書の表現の効果）と「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」（▲4. 8）（漢字の読み書き・故事成語）について課題が見られた。

<中学校>

- ① 数学Aで「比例」（▲5. 7）「一次関数の変化の割合の意味」（▲8. 3）「多角形の内角の和」（▲3. 9）「不等式」（▲3. 9）について、数学Bでは証明の問題に課題があった。
- ② 経年で見ると、基礎基本の定着ができつつあるが、活用での数量関係を数学的に説明したり、問題を解決する方法を説明したりすることに課題があった。
- ③ 2時間以上メディアに関わる生徒の割合は全国よりも高かった。平日・休日ともに1時間以上学習する生徒の割合は、全国より高いが、2時間以上は低い。

課題解決に向けた取組

<すぐに取り組む内容>

- ① 各学校から提出されたプランを中学校区別に把握する。特に課題のある学校については、今後の方策について再検討したり練り直しをしたりして、具体的で、実行性のあるプランにしていく。その際、学校訪問（要請訪問、研究会、魅力ある授業づくり徹底事業等の活用）し、授業を基に検討したり助言したりする。学校訪問については、継続的に複数回出向き、授業改善に向けた取組を支援したり改善の状況を確認したりする。
- ② 校長会や教務主任者会、市が実施する「学力向上実践研修会」等で、岡山型学習スタンダードの研修を行うことを求める。
- ③ 中学校でも、全国・県の学テ問題を全教員で解く研修をすることを求める。教科を超えた授業改善の取組を共通理解していくことを求める。
- ④ 県編集の春プリ等や岡事作成の基礎プリントや市編集春ドリルの活用を繰り返し広報し、ある程度ロングスパンで繰り返し学力の定着度を確認できるような取組を推奨する。
- ⑤ 小学校の基礎基本、特に国語に課題のある学校について、プランに明記するように求める。

<中・長期的に取り組む内容>

- ① 落ち着いた学習環境をつくり、学校全体で学習規律の徹底を図る。（小中共通で）
- ② 基礎的・基本的な知識・技能の習得を重視する授業改善を行う。（特に小学校国語において）
- ③ 言語活動を充実させ、思考力・判断力・表現力等の育成を図る授業改善を行う。（特に中学校において）
- ④ 授業と家庭学習の関連を図ったり、有効に時間を活用した補充学習に取り組んだりする。

<新見市>

課題
<p>① 国語</p> <ul style="list-style-type: none"> 基礎・基本の徹底と活用力を身に着ける。故事成語の使い方を単に教科書の上だけでの指導に終わらせるのではなく、活用できるレベルにまで引き上げるべく指導の工夫を行う。文章をただ書かせるだけの指導に終わらせない、児童に書く意義・達成感を味わわせる。 <p>② 算数・数学</p> <ul style="list-style-type: none"> 活用力を身につけさせるべく、多様な問題に取り組みさせる。(質問紙) 学習時間の確保。自主的な学習への取り組み。ゲーム時間の削減。読書。補充的な学習の場の確保。 <p>③ 学習状況</p> <ul style="list-style-type: none"> 宿題等の学校で与えられた課題には真面目に取り組んでいるが、自主的に学習に取り組んではいない。家庭学習に取り組む時間が少ない。 ゲーム等に費やす時間が多い。 読書に親しむ時間が少ない。 文書を書くことに抵抗を感じている生徒が多い。

課題解決に向けた取組
<p>小学校</p> <p><すぐに取り組む内容></p> <p>① 各校から提出された「学力・学習状況改善プラン」を分析し、「新見市学力向上推進研修会」を開き、学力調査結果の分析や喫緊の学力向上に係る課題についての研修の実施。</p> <p><中・長期的に取り組む内容></p> <p>① 「県・全国学力・学習調査」の過去の問題の活用</p> <p>② 「学習到達度テスト(県)」の全学級での実施</p> <p>③ 「岡山県型スタンダード」の徹底</p> <p>④ すべての担任(教科担任)の公開授業研修会の実施</p> <p>⑤ 中学校区での研修会開催</p> <p>⑥ 他校へ公開する授業研修会の開催</p> <p>⑦ 指導教諭による公開授業</p> <p>⑧ 家庭学習の質と量の向上</p> <p>中学校</p> <p><すぐに取り組む内容></p> <p>① 各校からの「学力・学習状況改善プラン」を分析し、「新見市学力向上推進研修会」を開催し、学力調査の分析や喫緊の学力向上に係る課題についての研修の実施。</p> <p><中・長期的に取り組む内容></p> <p>① 「県・全国学力・学習調査」の過去の問題を授業で取り組む。</p> <p>② 「学習到達度テスト(県)」の全学級での実施</p> <p>③ すべての教科担任の公開授業研修会の実施</p> <p>④ 中学校区での研修会の実施</p> <p>⑤ 指導教諭による市内公開授業の実施</p> <p>⑥ 岡山県型スタンダードの徹底</p> <p>⑦ 補充的な時間の継続的な確保</p> <p>⑧ 家庭学習の質と量の向上</p>

<備前市>

課題
<p>学力調査結果から</p> <p><小学校></p> <p>① 国語Bでは、「書く能力」の平均正答率が約34%と低い。</p> <p>② 算数Bでは、「数学的な考え方」の平均正答率が約47%と低かった。</p> <p><中学校></p> <p>① 国語Bでは、「書く能力」、「読む能力」の平均正答率が50%台と低い。</p> <p>② 数学Bでは、記述式の問題の平均正答率が約49%と低い。</p> <p>質問紙調査結果から</p> <p>① 学校の授業時間以外で、普段(月</p>

課題解決に向けた取組
<p>① 学校の授業改善の取組の支援</p> <ul style="list-style-type: none"> 各校、年に2回以上 授業公開や研究協議に参加し、改善点について指導 <p>② 小中連携(中学校区での学力向上の取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> 年2回以上 学力向上協議会の開催 授業公開の実施 <p>③ 学習到達度確認テストまたは全国及び県学力調査の過去問題の活用の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 8割以上の学校で活用 校長会で活用推進について依頼 <p>④ 補充学習の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 放課後学習の拡充 <p>⑤ 備前まなび塾の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 実施回数の拡充及び塾生の積極的な募集

曜日から金曜日) 1日当たり1時間以上勉強する割合が、中学生では全国とほぼ同じであるが、2時間以上勉強する割合は、全国を約9ポイント下回っている。

② 普段(月曜日から金曜日)1日当たり1時間以上テレビやDVDを視聴する割合が、小・中学生ともに約3ポイント全国を上回っている。

③ 普段(月～金曜日)、1日当たり1時間以上、テレビゲームをする割合が、小学生では約5ポイント、中学生では約5ポイントそれぞれ上回っている。

<瀬戸内市>

課題

<小学校>

- ① 国語A
 - ・ 故事成語の使い方、表現の仕方に課題がある。
- ② 国語B
 - ・ 必要な情報を整理して書くことと、詩の表現に課題がある。
- ③ 算数A
 - ・ 体積を求めることと、立体図形についての理解に課題がある。
- ④ 算数B
 - ・ グラフの理解、情報を整理し筋道を立てて考えること、規則性を見だし記述すること、図をかくことに課題がある。

<中学校>

- ① 国語A
 - ・ 主語と述語の関係の理解、話合いの役割理解に課題がある。
- ② 国語B
 - ・ 書く能力において課題がある。
- ③ 数学A
 - ・ 図形についての理解、確率についての理解に大きく課題がある。
- ④ 数学B
 - ・ 活用全般に大きく課題がある。特に低得点層の生徒の割合が高い。

課題解決に向けた取組

<すぐに取り組む内容>

- ① 個に応じた指導
 - ・ 朝学習の充実・・・授業進度に応じた振り返りや、単元末の振り返り、学期末の振り返りなど段階に応じた振り返りを行うよう指導する。
 - ・ 補充学習の充実・・・放課後学習や、長期休業中の補充学習教室の開催を指導する。
 - ・ 習熟度別授業の充実・・・習熟度別の授業を特に算数・数学において積極的に行うよう指導する。
 - ・ 少人数授業の充実・・・大規模校に対し、特に算数・数学の授業において少人数授業の研究推進を図るよう指導する。

<中・長期的に取り組む内容>

- ① 授業改善
 - ・ ICTを有効活用した授業の構築・・・研修会の企画。ICTを有効活用している指導者の公開授業の実施。
 - ・ 体験型学習の研究推進・・・外部機関との連携。体験型学習法の高い指導力をもった教師による師範授業の実施。
 - ・ 「岡山型学習指導のスタンダード」に基づいた授業スタイルの構築・・・特に「めあて」「まとめ」「振り返り」活動の適切なつながりについて指導する。
- ② 家庭学習の充実
 - ・ 家庭学習の手引きの作成・配布…家庭学習の方法・内容を自分自身で振り返る機会を増やしたり、家庭に呼びかけたりする。
- ③ 小中の連携
 - ・ 中学校区ごとの研究推進・・・各学期1度以上、中学校区ごとに研究会を開催する。
- ④ 地域との連携
 - ・ すべての学校において学校支援地域本部を設置・・・学習支援において地域の方に協力を得る。

<赤磐市>

課題
<p>① 各教科・設問レベルでの継続的な課題への対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国語では継続した課題である「文の定義」「接続詞のはたらき」等、文法に関する基礎基本に関する正答率が低く、課題解決には至っていない。 ・ 小学校算数では百分率・割合の学習、中学校では連立方程式と、継続して課題が見られるものがある。小学校5年・中学校2年での確実な学び直しを各校の実態に応じて進めていく必要がある。 ・ 記述問題については、解答用紙に記入しているものの「何を」「どのように」書くかという目的意識が低い記述が多くなっている。これは小学校低学年から「書く」活動についてのていねいな指導・復習が必要である。 <p>② 家庭での生活の仕方、家庭学習の定着</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中学校区で「ノーメディアデー」をはじめ、小中で連携した取組を行ってはいるものの、成果が数値に表れていない。家庭での生活の仕方にも課題が見られる。 ・ 家庭学習についても、小中が連携をして共通した「手引き」を作成しているが、活用が家庭学習の時間に結びついていない。

課題解決に向けた取組
<p><すぐに取り組む内容></p> <p>① 補充学習の見直しと効果的な活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 朝学習、昼学習、晩学習の充実：好事例の紹介による内容・方法の見直し、既習事項の反復練習の実施 ・ 小学校3・4・5年、中学校2年の補充学習の充実：当該学年の学習内容の確実な復習の体制を確立 ・ 各種学習プリントの活用：みんなでチャレンジング、基礎学力定着プリントの活用 <p>② 授業スタイルの改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「岡山型学習のスタンダード」に基づいた1時間の授業マネジメントの徹底（まとめを行う意識の徹底） <p><中・長期的に取り組む内容></p> <p>① 授業の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業づくりの基礎基本の徹底：「岡山型学習のスタンダード」の活用、まとめを確実にを行う授業の徹底 ・ 指導主事、外部講師の派遣による授業改善に向けた支援の継続 <p>② 各種調査結果を基にした指導方法の改善に向けた指導（PDCAサイクルの確立）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 調査結果をもとに、継続した課題の解決に向けた取組を行うよう各校への指導・支援を行う。 ・ 学習支援員のより効果的な活用について、好事例を紹介するとともに、より適切な活用を行うよう指導し、配置についても工夫していく。 <p>③ ノーメディアデーの取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 家庭学習の定着に向けて、よりよい生活習慣の定着を目指した「ノーメディアデー」の取組をさらに強化・充実させていく。

<真庭市>

課題
<p>【小学校】</p> <p>① 国語Aの正答数分布からはほぼ岡山県と同様の傾向が見られるが、全国に比べると若干下位にふれている。また、B問題は全国と比べて下位層が多い。</p> <p>② 国語A問題では「読むこと」に関する事項、B問題では多くの領域で正答率が全国と格差が大きい状態である。文章を読み解くことができにくい傾向が見られる。</p> <p>③ 算数Aの正答数分布は全国と比べて上位層が若干多いが、B問題で</p>

課題解決に向けた取組
<p><すぐに取り組む内容></p> <p>① 真庭市の概要を知らせる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 真庭市校長会及び各中学校区校長会に出向き、現状を知らせるとともに取り組みの方向性を共有する。 <p>② 正答率の低かった問題に対する補充学習の実施</p> <p>③ 活用問題・習熟問題への取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 過去問題、到達度確認テスト等を活用する。 <p>④ 教務主任研修会における小中連携協議会の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 真庭市及び各校の成果と課題を基に、今後の取り組みの方向性を共有する。 <p>⑤ 成果が出た学校の取り組みの紹介</p> <p>⑥ 家庭学習時間の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 目標時間の設定と確認をし、学校全体で取り組む。 ・ 宿題の内容・量の検討、自主学習に取り組む。

は若干少ない。

- ④ 算数A問題では、多くの領域で全国を上回った。B問題では「割合」や「単位量あたり」の問題に課題がみられる。

【中学校】

- ① 国語Aが全国平均を上回り、国語B、数学Bは岡山県平均を上回っている。
- ② 国語Aの正答分布から全国と比べて上位層が多い。B問題では2極化傾向が見られる。
- ③ 国語Aでは、「読むこと」がやや下回っている。B問題では、「言語文化等」の問題において下回っている。
- ④ 数学Aの正答分布から全国と比べて中位から下位層が多い。また、2極化の傾向が見られる。B問題も同様の傾向である。
- ⑤ 数学Aでは、全ての領域で全国平均を下回り、基礎事項の定着に課題がみられる。特に、「関数」に関する問題は昨年同様正答率が低い傾向にある。B問題でも多くの領域で全国を下まわる状況である。特に、「図形の性質」「資料の活用」に関する問題は大きく下回った。

【生活習慣等】

- ① 小中学校ともテレビ等の視聴時間は長い状況が続いている。
- ② 小中学校とも、休日の学習時間が全国と比べて低い状態で推移している。
- ③ 中学校の平日の家庭学習時間は全国や岡山県と比べて短い状態で推移している。
- ④ スマートフォン等の所有率が飛躍的に上昇しているが、ルール作りに遅れがみられる。

<中・長期的に取り組む内容>

- ① 落ち着いた学習環境づくり
- ・ 「授業改善」と「集団づくり」を柱とした学校、学級集団づくりの取り組みを推進することで落ち着いた学習環境を整える。
- ② 「岡山型学習スタンダード」を基本にした授業づくり
- ・ 「めあて」「まとめ」「振り返り」のある授業づくりに取り組むとともに、指導のねらいを明確にした言語活動を充実させる。
 - ・ 教材研究、教材分析を一層重視し、授業の焦点化と児童生徒が学び取る内容の正確さを追求する。
 - ・ 教材研究充実の契機として、ICT機器の活用を積極的に推進する。
- ③ 中学校区ごとの小中、小中連携の推進（真庭市学力向上推進事業）
- ・ 中学校区ごとに研究推進委員会や研修会、研究会を実施することで、学力向上に関して取り組みの方向性を共有する。
- ④ 放課後学習の実施と取り組みの充実
- ⑤ 生活づくりの徹底
- ・ 学ぶ力の土台として、学習・読書習慣の育成を軸に生活習慣を高める。

<美作市>

課題

【中学校】

- ① 平均正答率の全国及び県とのポイント差は、昨年度最大4.1ポイントであったが、本年度は3.4ポイントであり、国語Aにおいては1.2ポイント上回るなど、各校にて取り組んできた基礎基本の徹底や授業改善の成果が表れている。

課題解決に向けた取組

<すぐに取り組む内容>

- ① 市内の状況の概要を知らせる
- ・ 臨時校長会議を開催し、現状の把握と方向性の共有
 - ・ 好結果の学校の取組の紹介
- ② 学校の状況の把握と対応策の焦点化（県教育庁義務教育課学力向上対策班、出島氏への協力依頼）
- ・ 教務主任等学力担当教員対象の研修会を開催し、学校の課題に対応する取組への指示

る。

- ② 数学については、多くの設問で全国の正答率を下回る結果となっており、基礎基本の徹底や振り返りによる定着、習熟度別指導のさらなる工夫が必要である。
- ③ 家庭学習の充実に向けて、各校や中学校区で取組を進めているが、昨年に比べ学習時間はやや減少している。また、テレビやスマートフォンを長時間利用する割合は増加しており全国及び県を上回っている。家庭との連携を強めた取組が必要である。

【小学校】

- ① 基礎基本の徹底、活用力の向上のため、授業改善を目指して各学校において取り組んだことにより、全国及び県平均との差が、昨年度最大4ポイントの差異であったが、国語A及び算数Aでは最大2.7ポイントとさらに縮まってきた。
- ② 算数Aにおいては、基礎基本の徹底、習熟度別指導の成果が要因と考えられる。四則計算においては、どの設問も全国平均を上回る結果となっている。しかし、それ以外の設問で誤答が重なることから、課題となる単元でのさらなる習得が必要である。
- ③ 国語Aでは、故事成語の活用、表現技法、国語Bでは、目的や相手に応じた考えや意見を問う問題で課題がある。
- ④ 今後は家庭学習の更なる充実を図るため、内容等含めて家庭学習の実施時間が増えるよう家庭との連携を図る必要がある。

- ・ 抽出した中学校区研修会を開催し、対応策の焦点化（作東中学校区、英田中学校区）
- ③ 重点的に取り組む共通した課題集を学校で取り組む
- ④ 学力・学習状況について市のホームページへ掲載し、保護者へのチラシ等を作成し、啓発する。

<中・長期的に取り組む内容>

- ① 落ち着いた学習環境
 - ・ 子どもの人間関係づくりを大切にした学級集団づくりとユニバーサルデザインを意識した学習環境整備
- ② 国語科、算数・数学科の指導方法の向上
 - ・ 国語の指導として、目的や相手に応じて話したり聞いたりする授業、書く習慣を付ける授業、様々な文章を読む習慣を付ける授業
 - ・ 算数・数学の指導として、実生活における事象との関連を図った授業、課題となる単元内容の繰り返し・さかのぼりによる定着
- ③ 指導方法・学習規律の徹底
 - ・ 学習規律の維持徹底、学習方法に関する指導のさらなる充実
- ④ 「岡山型学習指導のスタンダード」をもとにした授業づくりと言語活動の充実
 - ・ 各教科等の指導のねらいを明確にした上で、言語活動を適切に位置付ける
 - ・ 様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導
- ⑤ 教育総務課と連携してICT機器の整備を図る
- ⑥ 社会教育課と連携し、「寺子屋型放課後学習教室」の開催を模索する
- ⑦ 中学校区の連携した教育の推進

<浅口市>

課題

<学力調査から>

- ① 国語については、小中学校ともに、漢字の読み書きや故事成語、ことわざ、敬語等の言語事項について課題がある。
- ② 数学（算数）については、小中学校ともに、基礎的・基本的な知識・技能を問う設問については改善が見られるが、中学校の数学では、2/3を過ぎたあたりから無

課題解決に向けた取組

<現在、取り組んでいる内容>

- ① 授業改善に向けて
 - ・ 浅口市学力向上No1プロジェクトにおいて、本年度は「自ら学ぶ」「ともに学ぶ」「人に学ぶ」の視点で、各校の校内研修の充実を図る。
 - ・ 市内各校の校内研修（公開授業）を全小中学校に情報提供するとともに指導主事が出向くことにより、学校間連携につなげる。
 - ・ 「岡山型学習指導のスタンダード」を様々な研修の場で活用することにより、児童生徒が「分かる授

回答率が高くなっており、問題を解くスピードに課題がある。

- ③ 国語・数学（算数）ともに、思考力・表現力を必要とする記述式の設定問については、無回答率も高いことから依然として課題があるといえる。

<児童生徒質問紙から>

- ① 小中学校ともに、自分の考えを他の人に説明したり文章を書いたりすることが難しいという回答が増加するなど、言語活動に関わる項目に課題がある。
- ② 中学校では、授業以外に1時間以上学習する回答が増加しており改善が見られるが、小学校では減少している。いずれにしても、全国平均を下回っており、依然として課題である。
- ③ 小中学校ともに、スマートフォン等の所持率は全国より低いが、中学校においては、平日にテレビ等を1時間以上視聴する、テレビゲームを1時間以上する、スマートフォン等を1時間以上使うという回答が全国より高く、4時間以上の回答も約1割おり課題である。

業」「楽しい授業」をめざす。

- ② 学習内容の定着に向けて
- ・ 放課後学習サポート事業を活用し、市内全小中学校で放課後学習を実施し、振り返り学習や補充学習による学習内容の定着に取り組む。
 - ・ 各校において、朝の時間やスキル学習の時間を確保し、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る。
- ③ ICT機器の導入・活用
- ・ 教材提示装置やプロジェクター、児童用タブレット等の機器を活用し、児童生徒が意欲をもって学習に取り組める工夫を行う。

<今後、取り組む内容>

- ① 浅口市学力向上No.1プロジェクトにおいて、研究推進委員会を活性化し、市内幼小中学校の研究主任等（ミドルリーダー）の意識を高め各校の校内研修の更なる充実による授業改善を目指す。
- ② 学力向上フォーラムを開催し、市内幼小中学校の取組を広く知ってもらう機会をもつ。
- ③ 学力向上推進協議会を開催し、学力テストの結果分析を基にした取組の情報交換とともに、浅口市の課題である「書くこと」への抵抗感を取り除くための取組について協議する。
- ④ 家庭学習の定着、習慣化とメディアとのつきあい方を中心に、中学校区で統一したチェック表を作成するなど児童生徒への継続した意識付けを工夫する。

<和気町>

課題

- ① 国語では、「文の定義」や「接続語の働き」など、文法の基礎基本に関わる事項の正答率が低い。
- ② 社会では、「日本の国土と人々の暮らし」や「日本の食料生産」といった5年生の学習内容での課題がみられ、資料活用の技能と、基本的な事項の知識理解とあわせた指導が必要。
- ③ 算数（数学）では、全体的にどの領域においても県平均に達しておらず、「基礎基本」の底上げが必要。「四則の混じった計算」「数量関係」「図形」等、児童生徒が苦手とする問題での誤答が多い。
- ④ 県調査を実施した理科でも、全体的に県平均をやや下回っている。特に「物質・エネルギー」領域での学習理解に課題が見られる。

課題解決に向けた取組

<すぐに取り組む内容>

- ① 中学校区全体で、放課後学習や夏学習（補充学習）に取り組む。
- ② 県からの、学校別結果公表様式作成支援ツールを使い、町全体の分析を行うと共に、各校で県及び全国学力、学習状況調査結果の分析をしてもらい、研修を行った上で、改善プランを作成提出。
- ③ 町で各校教務主任を中心とした研修会を行い、各校ごとの分析、改善プランをもとにした情報交換や今後の取組について話し合い、実践につなげる。
- ④ 町内放送を活用した「家庭学習頑張り週間」や「生活リズム向上週間」の呼びかけを行うとともに、「頑張りカード」を活用した強化週間設定の促進。

<中・長期的に取り組む内容>

- ① 授業改善
- ・ 「岡山型学習のスタンダード」の積極活用を図り、それにもとづいて、学習の基盤づくりや落ち着いた学習環境を見直したり、授業づくりを行ったりする。
 - ・ とくに「学習のめあて、ねらい」を必ず毎時間、授業の始めに児童生徒に分かるように示し、授業の最後に「まとめ」と「ふり返り」を行うようにする。

- ② 基礎基本の定着
 - ・ 「学習到達度確認テスト」「基礎学力定着プリント」を引き続き積極的に活用すること。「学びのチャレンジコンテスト」への参加促進
- ③ 家庭学習の取組の共有化
 - ・ 各校で宿題や課題の出し方、家庭学習の内容の見直しを行ってもらい、好事例の紹介や情報交換をし、取組を活性化する。

<里庄町>

課題
<ul style="list-style-type: none"> ① 漢字・計算は、全体的に比較的できているが、内容によってはできていないものがある。 ② 国語科では、文章を読んで根拠を明確にして自分の考えを書くことに課題がある。 ③ 算数、数学科では、割合の問題や示された問題を、自分で整理して説明する力に課題がある。 ④ 平日1日あたりの勉強時間で、1時間未満の子どもが、小学校で22%、中学校で36%いる。 ⑤ 学校の復習をだいたいしている子どもが、小学校で53%、中学校で26%である。

課題解決に向けた取組
<p><すぐに取り組む内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ① 県・全国学力学習状況調査の結果から見えた成果と課題の小中での共有 <ul style="list-style-type: none"> ・ 取り組みの成果、課題 ・ 今後の取り組みの方向性の確認、教育委員会だよりの発行 ・ 好事例の共有 ② 各校の具体的実践の共有 <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業改善の取り組みと校内研修の充実（岡山型学習スタンダードの活用） ・ 国語、算数（数学）の学力診断テストの実施と活用 ・ 理科の授業改善 <p><中・長期的に取り組む内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ① 里庄町学力向上の重点目標の徹底 <ul style="list-style-type: none"> ・ 基礎基本の徹底 ・ 論理的に書く力（表現力）の育成 ・ 家庭学習の充実 ② 学校全体で徹底していくための工夫（教育課程等も含む） <ul style="list-style-type: none"> ・ 朝の学習 ・ 補充学習 ・ 読書活動 ・ 学習の積み重ね（学習プリント等のファイルの仕方の統一）

<矢掛町>

課題
<ul style="list-style-type: none"> ① 小学校の中学年頃から基礎的基本的な内容の定着に課題が見られはじめる。（学年が上がるにつれて学力の二極化がおこる） ② 小学生は「故事成語」等の3・4年生で学習したあと復習の機会のない（日常生活でふれる機会のない）学習内容の定着に課題がある。 ③ 中学生は基礎的な内容の定着や学習や調査に対する意欲に課題がある。（無回答率が非常に高く、特に

課題解決に向けた取組
<p><すぐに取り組む内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ① 授業改善 <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業規律の徹底（教室掲示や声かけの共有） ・ 「岡山型学習指導スタンダード」に沿った授業の共有 ・ 特別支援教育の視点を取り入れた授業の工夫（ICT機器の活用による視覚化、授業のめあて・流れ等の明示による焦点化等） ② 基礎基本の徹底 <ul style="list-style-type: none"> ・ ドリル学習や補充学習を実施（前学年までの内容で）

記述問題（根拠を明確にして説明したり、自分の考えを記述したりする問題）を苦手としている。）

- ④ 算数・数学が好き、よくわかるという児童生徒の割合が低い。
- ⑤ テレビやゲームの時間が年々増加しており、家庭での学習時間が少ない児童生徒が非常に多い。（特に休日の学習時間が少ない。）

③ 教職員の課題共有
・ 学校や学年の課題を学校全体（教職員全体）で共有
<中・長期的に取り組む内容>

- ① 授業改善
 - ・ 児童生徒の実態に応じた授業の工夫（アセスメントシート等の活用）
 - ・ 「岡山型学習指導スタンダード」に沿った授業の工夫
 - ・ 特別支援教育の視点を取り入れた授業の工夫
 - ・ 表現力を高める学習活動の工夫（ペア学習やグループ学習、学び合い学習等の実施、字数制限等を設けた書く活動の工夫）
- ② 基礎基本の徹底
 - ・ 単元ごと、学期ごと、学年ごとに、学習内容を振り返る機会（たしかめテスト等）をつくる。
 - ・ 児童生徒の実態に応じて放課後等に補充学習を実施する。
- ③ 「矢掛町保幼小中学学習規律等一貫指導プラン」の作成
- ④ 「矢掛町家庭学習強化期間」の設定

<鏡野町>

課題

- ① 小・中学校の平均正答率を学校別に分析すると、学校間で大きな開きがある。
- ② 課題のある小・中学校を選定し、重点的に指導・支援する。

課題解決に向けた取組

<すぐに取り組む内容>

- ① 朝学習の充実
- ② 漢字や計算等の基礎学習の徹底
- ③ 補充学習の実施
 - ・ 課題のある学校への「放課後補充学習」の導入
- ④ 指導主事による学校訪問及び校長面談

<中・長期的に取り組む内容>

- ① 授業改善及び授業の充実
 - ・ 「岡山型学習指導のスタンダード」の活用
 - ・ 自分の思いや考えを、文に表したり、発表できるようにする
 - ・ たしかめテストの結果分析及び支援

<勝央町>

課題

- ① 小学校は国語A・国語B・算数Bで全国平均正答率を下回っている。中学校は国語Bが全国平均正答率をわずかに下回っている。
- ② 小学校国語Aにおいて、故事成語の平均正答率が低い。（第3・4学年以降の振り返り学習が不十分であったと思われる。）
- ③ 小学校算数Aにおいて、図形領域の平均正答率が低い。
- ④ 中学校国語Bにおいて、複数の資料を比較して読み、要旨を捉える

課題解決に向けた取組

<すぐに取り組む内容>

- ① 勝央町学力向上対策委員会の開催
 - ・ 小中学校が連携し学力向上に取り組むため、学力向上対策を検討し、成果をあげた取組の交流も行う。
- ② 学習プリント作成ソフトの導入と活用
 - ・ 小学校2校で実施する。各学年の学習内容定着状況を把握するとともに、振り返り学習を推進する。
- ③ 朝学習と補充学習の推進
 - ・ 学習プリント作成ソフト、学習到達度確認テスト等の積極的活用により学習内容の定着を図る。
 - ・ 町内全校で期間を揃えて「家庭学習強化週間」に取り組む。

<p>ことに課題がある。</p> <p>⑤ 中学校数学Aにおいて、例えば「関数」の設問のように、第1学年で学習した内容の正答率が低い。</p>

<p><中・長期的に取り組む内容></p> <p>① 授業改善・授業の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業改善に向けて校内研修の充実と積極的な授業公開の推進 ・ 土曜日授業を活用しての授業公開（小学校2校・校内研究の研究教科は国語） ・ 指導主事による指導・支援 ・ 外部講師の積極的招聘 ・ 「岡山型学習指導のスタンダード」の積極的活用を図る。 <p>② 「メディア・ダイエツ」の取組の推進</p> <p>③ 標準学力検査の実施と活用</p> <p>④ 勝央町ホリデーわくわく学習支援事業の実施</p> <p>⑤ 習熟度別指導の実施</p> <p>⑥ 郡内小・中学校教務主任研修会にて教育課程編成の交流</p>

<久米南町>

<p>課題</p> <p>① 国語は、文法の基礎基本にかかわる正答率が低い。また、文章を読み取る力も弱い。</p> <p>② 算数は、「数と計算」「図形」領域、数学は、「図形」「関数」の正答率が低い。また、読解力や記述する力（自分の言葉で説明する力）も弱い。</p> <p>③ 漢字の読み書き、四則計算といった基礎基本は比較的良好に身につけているが、問題文をしっかりと読み取れないために、活用問題に限らず基礎問題でも間違える児童生徒が多い。</p> <p>④ 授業には真剣に取り組める児童生徒が多いが、自分の考えを表現する（書く・言う）ことを苦手と感じる児童生徒が多い。</p> <p>⑤ 家庭学習にはまじめに取り組む児童生徒が多いが、時間には差がある。また、自主学習にもよく取り組んでいるが、内容の質を高めていく必要がある。</p>

<p>課題解決に向けた取組</p> <p><すぐに取り組む内容></p> <p>① 基礎的基本的な知識・技能の定着…定期的に小テストを実施し、児童の理解度・つまづきを把握し、個に応じた支援を行う。（基礎基本）</p> <p>② 朝学習の充実…四則計算を中心にした計算プリント、読み書きを中心にした漢字プリントを行い、既習事項の反復練習を行う。（基礎基本）</p> <p>③ 放課後学習の充実…小学校：4・5年生希望者を対象に水曜日に行う。中学校：全学年を対象に毎日行う。（基礎基本）</p> <p>④ 読書の充実…朝学習の時間に、読書を取り入れ、国語の時間にも読書の時間を取り入れる。（読む力）</p> <p><中・長期的に取り組む内容></p> <p>① 「岡山型学習スタンダード」を積極的に活用した授業改善を図る。</p> <p>② 校内研修において、外部講師を招いた学習会を行ったり、積極的な授業公開を行ったりしながら、授業改善を図る。</p> <p>③ 久米南町教育会各部会での授業公開を積極的に行い、小中での連携をとりながら、授業改善を図る。</p> <p>④ 国語・算数の学力検査NRTを行い、結果を分析し、授業改善に生かす。</p> <p>⑤ 家庭学習の手引き・自主学習の手引きを活用する。また、次年度に向けて交流・検討し、町内で統一できる内容は統一する。</p> <p>⑥ 心理検査hyper-QUを利用して、学校生活における児童生徒の意欲や満足感、および学級集団の状態を的確に把握し、落ち着いて学校生活を送ることができるよう支援する。</p> <p>⑦ 保育園・図書館と連携し、町内一斉ノーメディア週間を実施し、家庭での更なる生活習慣改善を図る。</p>
--

<美咲町>

課題
<p><学力面></p> <p>① 以前に比べれば「基礎的学力」は向上しつつあるが、まだまだ全体的に確実性が低い。</p> <p>② B問題については、依然として全国差が大きく、改善があまり見られない。過去全ての調査結果においてB問題がA問題を下回り、小中学校とも活用力に大きな課題があると言える。</p> <p>③ 「長文を読んで理解する。」「条件に合った内容を考えて書く」「根拠を明確にしなが論理的に説明する」等を苦手とする児童生徒が圧倒的に多い。</p> <p><生活面></p> <p>① 小中学生とも、家庭学習の時間が全国平均に比べ少ない。特に中学生については、家庭学習1時間以上の割合が、平日・休日とも全国平均を大きく下回り、課題である。</p> <p>② 「自己肯定感」や「将来に対する夢・希望」を持っている児童生徒の割合が低い。過去の結果でも同様の傾向が見られたことが多く、町全体としての大きな課題であると言える。</p>

課題解決に向けた取組
<p><すぐに取り組む内容></p> <p>① 「落ち着いた学習環境づくり」と「定着のある授業」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 特別支援（ユニバーサルデザイン）の視点を取り入れた「誰もが分かる授業」を展開し、1時間の中で確実な定着が図れる授業を目指す。 <p>② 継続した「基礎・基本の徹底」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「基礎定着プリント」の有効活用・「チャレンジテスト」による学習意欲の向上・「町統一テスト」による反復練習等の徹底を各校に再度確認・周知を図り、引き続き「基礎・基本の徹底」を目指す。 <p>③ 家庭学習の積極的見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ スパイラルに学習していくための家庭学習内容の工夫、「家庭学習の手引き」の見直し・有効活用による学習意欲の向上、PTAとの連携によるメディア接触時間の減少等、学校と連携しながら推進する。 <p><中・長期的に取り組む内容></p> <p>① 「活用力の育成」を意識した授業改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「話す」「聞く」「書く」「考える」活動を授業の中で積極的に取り入れながら、身に付けた基礎的な知識や技能が、有効に活用されるような授業展開の工夫を考えていく。特に国語では、「単元を貫く言語活動」等を取り入れながら、児童生徒に目的意識や相手意識をしっかりと持たせることのできる授業が積極的に展開されるよう、指導・助言を行う。 <p>② 夢や希望の持てる児童生徒「自己肯定感の高い児童生徒」の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ キャリア教育を一層充実させながら、現在の自分に自信が持て、将来の自分に対して夢や希望がしっかりと持てるような取組を積極的に推進する。

<吉備中央町>

課題
<p>① 全国及び岡山県学力・学習状況調査等において、高い平均正答率を常に残すことは、できなかった。また、新聞報道等の結果をみて、評価されることがあった。しかし、吉備中央町の学力向上に向けた取り組みの目的は、高い平均正答率を追求するものではない。今後も、学力・学習状況調査等の結果は、学年によって大きく変動することは予想できるが、小学校低学年からの状況をしっかり把握し、児童生徒の頑張りを評価していく。</p>

課題解決に向けた取組
<p>① 確かな学力の定着</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小中学校では、これまでの学力向上に向けた取組をより一層進める。幼稚園では、義務教育の素地となる園児の資質の育成に努める。 <p>② 学校園力、授業力、生徒指導力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各学校園において、公開授業や公開研修を引き続き実施するとともに、各部会での研修を充実させる。 <p>③ 幼小中学校の連携の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 幼小中学校での連携の視点を各部会等で確立するとともに、幼幼、小小連携に向けても取組内容を精選し、具体的に取り組む。 <p>④ 家庭との連携強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 家庭での基本的な生活習慣の確立を目指し、参観日等での懇談の内容等を見直し、幼小中学校で連携した取組を計画的に実施する。

② 吉備中央町の児童生徒の学力向上に向けた総合的、組織的、継続的な取り組み、通称「きび学プロジェクト」は、平成21年度から5年間の学力向上に向けた集中的な取り組みとしてスタートし、各学校の取り組みの方向性を示すことができた。しかし、吉備中央町教育研修所の全ての部会等までの方向性は示すことができなかった。今後は、特設した学力向上推進委員会の役割を吉備中央町教育研修所の理事会等に移行するとともに、きび学プロジェクトの成果を生かした吉備中央町教育研修所取組方針を作成検討することで、学力向上に向けた取り組みを継続していく。

【重点取組】

- ① 学習指導案の「指導上の立場」の中に、「小中連携について」の項目を入れる。取り上げる教材の内容が、小学校や中学校の段階でどのように教えられるかや、小中学校の指導を踏まえて、どのような配慮や工夫をしているか等を記入する。そのためには、学習指導案の検討時に、他の学校の職員を招いて検討する機会を積極的に設ける。
- ② 各学校園で行われる学習指導案検討会や研究授業等は、積極的に他校園に公開研修会や公開授業、公開保育として知らせる。各学校園の教員は、積極的に授業公開を行うとともに、他校園の公開授業等に年に1回は参加する。
- ③ 学習指導案の「指導上の立場」の中に、「特別支援教育の視点について」の項目を入れる。特別支援教育の視点から、どう支援や配慮をするかを記入する。そのためにはアセスメントシート等を活用し、児童生徒の実態把握に努めることが大切になる。
- ④ 町教育研修所の生徒指導部会を中心に、同一中学校区の学校間で校則や生徒指導等に関するきまりやその指導方法、内容についてまとめ、学校間の連携が図れるよう検討する。
- ⑤ 町教育研修所の教務主任部会を中心に、各小中学校の発達段階に応じたキャリア教育の計画等をまとめ、9年間を見通したキャリア教育を推進し、学びに目標をもたせる指導を充実させる。

※ 早島町、新庄村、奈義町、西栗倉村については、小中学校とも調査対象校が1校のため、掲載していない。

2 様式例

(1) 学力・学習状況改善プラン

〇〇〇立〇〇小学校（〇〇〇教育委員会） 平成26年度 学力・学習状況改善プラン
平成26年9月 作成

昨年度の取組とその成果

課題の課題

課題解決に向けた今後の取組

<すぐに取り組む内容>

<中・長期的に取り組む内容>

保護者・地域へお願いすること

具体的目標

行先	どこまで		いつまでに		どのような方法で		達成状況(12月末現在)		達成状況(2月末現在)		次年度への改善点
	達成度	説明及び課題	達成度	説明及び課題	達成度	説明及び課題	達成度	説明及び課題	達成度	説明及び課題	

※ 達成度…「S」:目標を大きく上回った(100%超)、「A」:目標を十分達成できた(85%以上100%未満)、「B」:目標を概ね達成できた(70%以上85%未満)、「C」:目標をある程度達成できた(50%以上70%未満)、「D」:目標をあまり達成できなかった(30%以上50%未満)、「E」:目標を達成できなかった(30%未満)

〇〇〇立〇〇小学校 (〇〇〇教育委員会) 平成26年度 学力・学習状況調査結果の概要 平成26年10月0日 公表

全国及び岡山県学力・学習状況調査結果の概要

全国学力・学習状況調査結果概要

岡山県学力・学習状況調査

学力の重点課題

学校の授業の中で、自分の考えを他の人に説明したり、文法に書いたりすることは難しいと感じる割合

授業のほとんどの目標が達成できていると感じる割合

改善策

学校での取組

家庭・地域へのお願い

達成目標・検証方法・検証時期